

AG スタートアップガイド

<https://manual.amnimo.com>

2024年11月13日に印刷しました

目次

[はじめに](#)

[安全上の注意](#)

[エッジゲートウェイについて](#)

[本書について](#)

[梱包品の確認](#)

[当社販売のアクセサリ（別売品）](#)

[お客さまにご用意いただくもの](#)

[エッジゲートウェイ（屋内版）の場合](#)

[エッジゲートウェイ（屋外版）の場合](#)

[SSHの設定をする](#)

[システム全体図](#)

[PCのIPアドレスを変更する](#)

[初回サインイン](#)

[簡易設定をする](#)

[時刻を設定する](#)

[PPPの設定をする](#)

[ストレージ設定をする](#)

[デバイスに設定内容を保存する](#)

[ネットワークカメラと接続する](#)

[デバイスが再起動を繰り返す](#)

[VMSの種類](#)

[Nx Witnessの設定をする](#)

[amnimo VMSの設定をする](#)

[統合ビデオ管理システムとは](#)

[エッジゲートウェイを有効化する](#)

[VMSの認証情報を設定する](#)

[カメラを検出する](#)

[カメラの認証と使用開始の設定をする](#)

[デバイス管理システムとは](#)

[デバイスを有効化する](#)

[remote.itとは](#)

[remote.itのアカウントを作成する](#)

[remote.itの設定をする](#)

[remote.itを使ってサービスに接続する](#)

[ライセンス](#)

[商標](#)

[改訂履歴](#)

はじめに

2024年7月12日

このたびは当社のアムニモエッジゲートウェイ（以下「エッジゲートウェイ」）をご採用いただき、誠にありがとうございます。

スタートアップガイド（以下「本書」）では、エッジゲートウェイのセットアップ方法を説明しています。エッジゲートウェイをご使用になる前に必ずお読みください。

セットアップを完了したあとは、本書をいつでも見られる場所に保管してください。

安全上の注意

2024年7月12日

エッジゲートウェイをご使用になる前に、エッジゲートウェイに同梱されている「お使いになる前に」をよくお読みになり、安全で正しい取り扱いをするようにしてください。

エッジゲートウェイについて

2024年7月12日

エッジゲートウェイに関するご注意

エッジゲートウェイは、設定データに関しては製品バージョンの下位互換を保証していません。

本書について

2024年7月12日

本書に関するご注意

- 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容の全部または一部を無断で転載、複製することは禁止されています。
- 本書の内容に関しては万全を期していますが、万一ご不審の点や誤りなどお気づきのことがありましたら、当社カスタマーサポートまでご連絡ください。

連絡先：アムニモカスタマーサポート

E-mail：support@amnimo.com

URL：<https://support.amnimo.com/>

- 機能／性能上とくに支障がないと思われる仕様変更、構造変更、および使用部品の変更については、その都度の改訂はしない場合がありますのでご了承ください。

マニュアル一覧

- amnimo G シリーズ エッジゲートウェイユーザーズマニュアル
https://amnimo.com/manual/edge_gw/ja/edge_gw_users_manual.pdf
- amnimo エッジゲートウェイシリーズ GUIユーザーズマニュアル<https://manual.amnimo.com/docs/gui-users-manual/>
- amnimo ゲートウェイシリーズ CLIユーザーズマニュアル
https://amnimo.com/manual/edge_gw/cli/ja/cli_users_manual.pdf
- Nx Witness VMS Guide
https://amnimo.com/manual/edge_gw/vms/ja/index.htm
- デバイス管理システムマニュアル
<https://manual.amnimo.com/docs/device-management-system/>
- 統合ビデオ管理システムマニュアル
<https://manual.amnimo.com/docs/evms/>
- エッジゲートウェイスタートアップガイド（本書）
<https://manual.amnimo.com/docs/edgegateway-sg-jp/>

当社販売のアクセサリ（別売品）

2024年7月18日

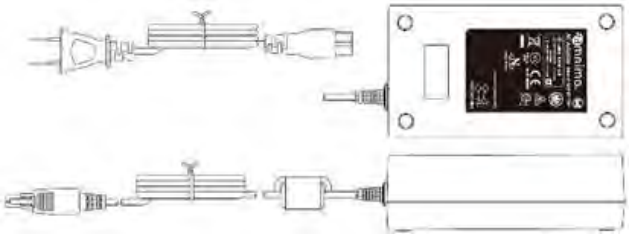
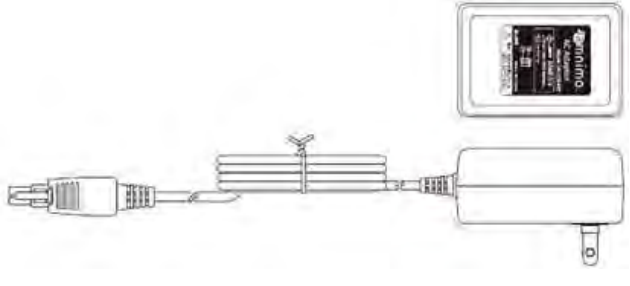
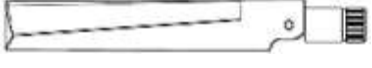

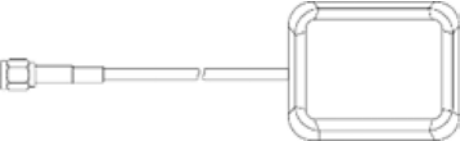
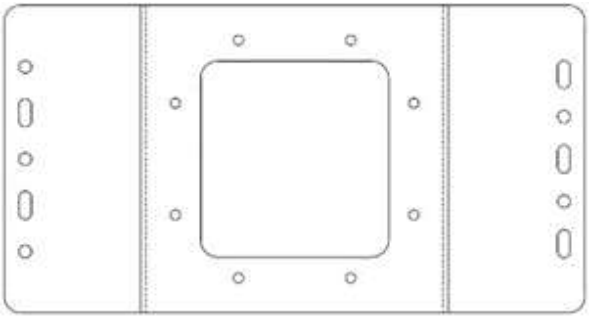
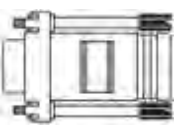
本書のとおりを設定する場合、以下の別売品を用意する必要があります。

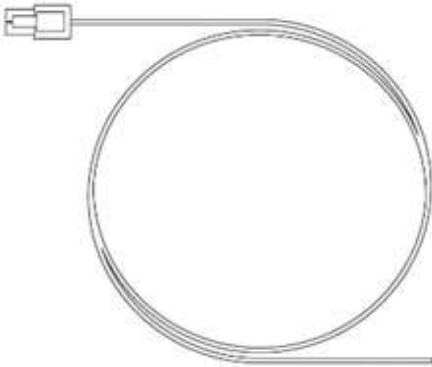
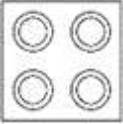
CAUTION

別売品は、エッジゲートウェイの保証範囲には含まれません。

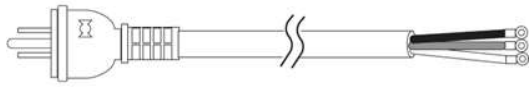



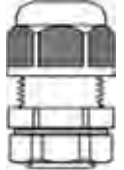
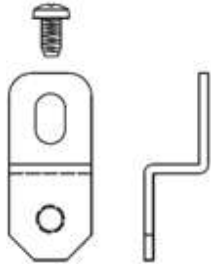
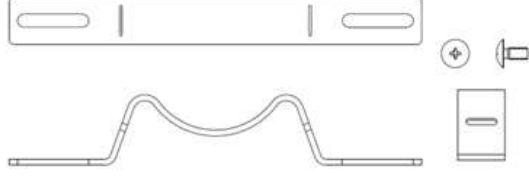

→ 仕様や規格などについては、『[amnimo G シリーズ エッジゲートウェイ ユーザーズマニュアル](#)』を参照してください。

エッジゲートウェイ（屋内版）（AG10）

品名	図	部品番号	仕様・備考
ACアダプター (DC24V/2A)		M7901 YA	DC24V/2A、30W負荷、 60℃環境
ACアダプター (DC12V/1A)		M7901 YC	DC12V/1A、6W負荷、 60℃環境
ロッドアンテナ		M7901 YD	2本セット
外付けアンテナ		M7901 YE	ケーブル長2.5m 2本セット
GPSアンテナ		M7901 YP	ケーブル長 5m マグネット付き (対応周波数GPSのみ)
本体固定金具		M7901 YJ	本体固定ネジ付き
コンソール変換		M7901 YG	RJ-45 – D-Sub9ピン

品名	図	部品番号	仕様・備考
直流電源ケーブル		M7901 YK	電源コネクタ片端未処理 ケーブル
ゴム足		M7901 YH	4個セット

エッジゲートウェイ（屋外版）（AG20）

品名	図	部品番号	仕様・備考
防雨ACケーブル		M7901 YV	5m 丸形圧着端子付き 外径9.15mm
ケーブルグラウンド（イーサケーブル用）		M7901 YQ	適合電線径 6~10mm
ケーブルグラウンド（電源専用）		M7901 YR	適合電線径 8~14mm
ケーブルグラウンド（イーサケーブル用）		M7901 YY	適合電線径 4~6.6mm
ケーブルグラウンド（イーサケーブル2本用）		M7901 YZ	適合電線径 4.3~6.1mm
壁取付金具		M7901 YX	ステンレス製 4セット
ポール取付金具		M7901 YW	ステンレス製 2セット
ポール取付バンド		M7901 YU	ステンレス製 対応ポール・コン柱径60~400mm

 NOTE

- エッジゲートウェイ（屋外版）では、筐体にタカチ電機工業製のBCPK203015Sを使用しております。当該筐体に適合するタカチ電気工業製の純正プシヨンは使用可能です。
- PF管コネクタは、古河電工製 PFS-16BKSR-1(防水PF管コネクタ IPX5)や未来工業製 FPK-!6YPS(防水PF管コネクタ IPX7)やそれに準じた製品が利用可能です。

お客さまにご用意いただくもの

2024年7月12日

- **SIMカード**

モバイル接続する場合、ご用意ください。

→ 仕様や規格などについては、『[amnimo G シリーズ エッジゲートウェイ ユーザーズマニュアル](#)』を参照してください。

- **設定用PC**

エッジゲートウェイの各種設定をするために必要です。

本書では、Windows 10を用いて説明しています。

- **LANケーブル（推奨カテゴリ：CAT5e以上）**

エッジゲートウェイとPCを接続する際に必要です。

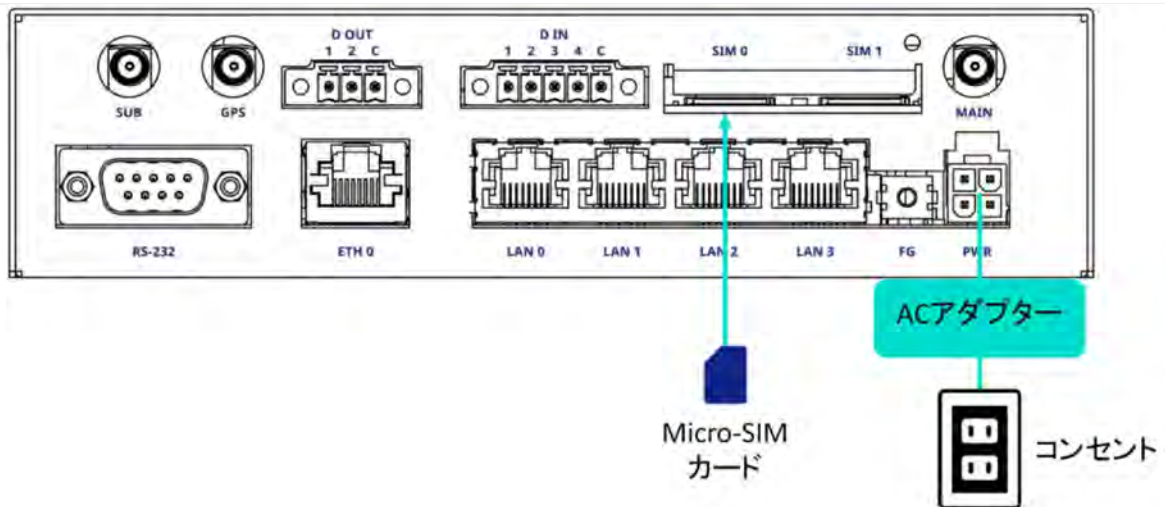
エッジゲートウェイ（屋内版）の場合

2024年7月12日

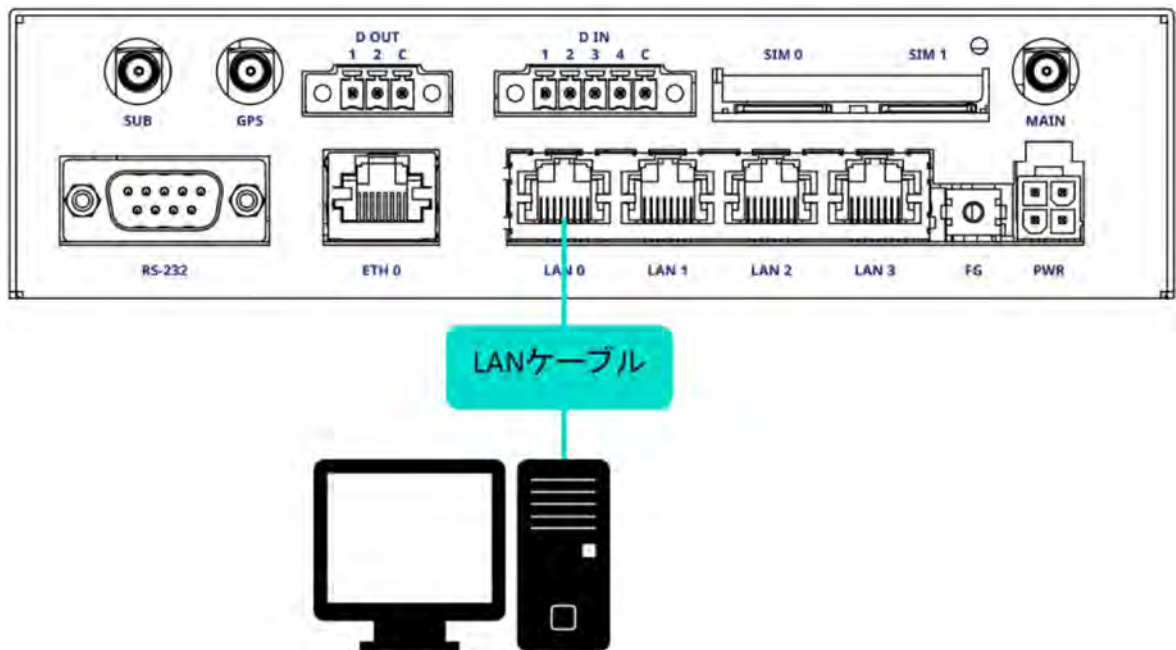
1 エッジゲートウェイの背面に、使用するSIMカードを挿入します。

NOTE

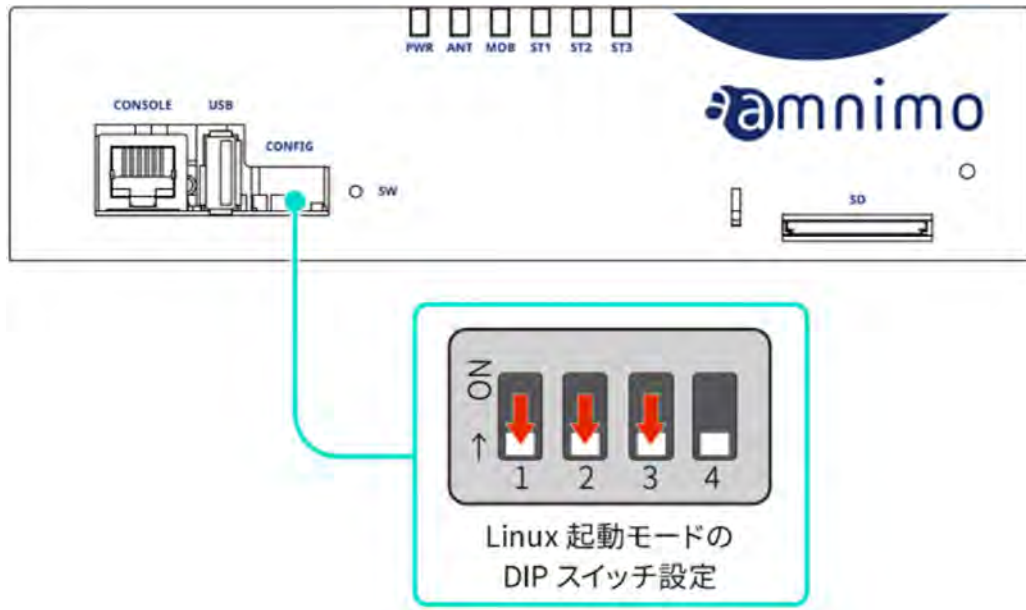
SIMカードの接点が下側になるように差し込んでください。



2 LANケーブルを用いて、エッジゲートウェイのLAN0ポートとPCを接続します。



- 3 エッジゲートウェイの前面にあるコンフィグレーション用DIPスイッチを、Linux起動モードに設定します。



DIPスイッチアイコンの説明

DIPスイッチ	説明
	ON状態
	OFF状態

NOTE

No.4のDIPスイッチは、ONでもOFFでも構いません。ブートローダーでは参照しません（アプリケーション側でのみ使用します）。

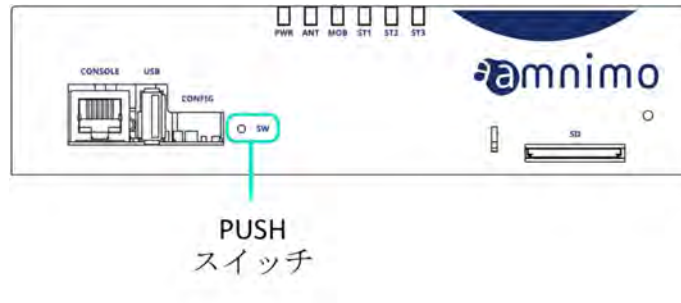
- 4 エッジゲートウェイにACアダプターを接続します。

電源が自動で入り、エッジゲートウェイが起動します。

エッジゲートウェイ（屋内版）をシャットダウンするには

以下のいずれかの方法でシャットダウンすることができます。シャットダウン中にはLED PWRが点滅します。LED PWRが赤色に点灯したら、シャットダウンの完了です。

- 起動中に、本体のPUSHスイッチを、先端の尖った細いもので3秒以上押し込むことで、電源をOFFにする





- 以下のコマンドでシャットダウンする

→ コマンドの使い方は『[エッジゲートウェイシリーズ CLI ユーザーズマニュアル](#)』を参照してください。

```
admin@amnimo:~$ sudo systemctl poweroff
[sudo] password for admin:      ←rootのパスワードを入力してEnter
  Stopping Docomo of user admin.
  Stopping Unpack initramfs on shutdown...
(省略)
  Starting Power-Off
NOTICE: You can turn off the power.
```

シャットダウン処理中のLED表示

項目	PWR	ANT	MOB	ST1	ST2	ST3	備考
シャットダウン処理中							500ms間隔
電源断可能状態							

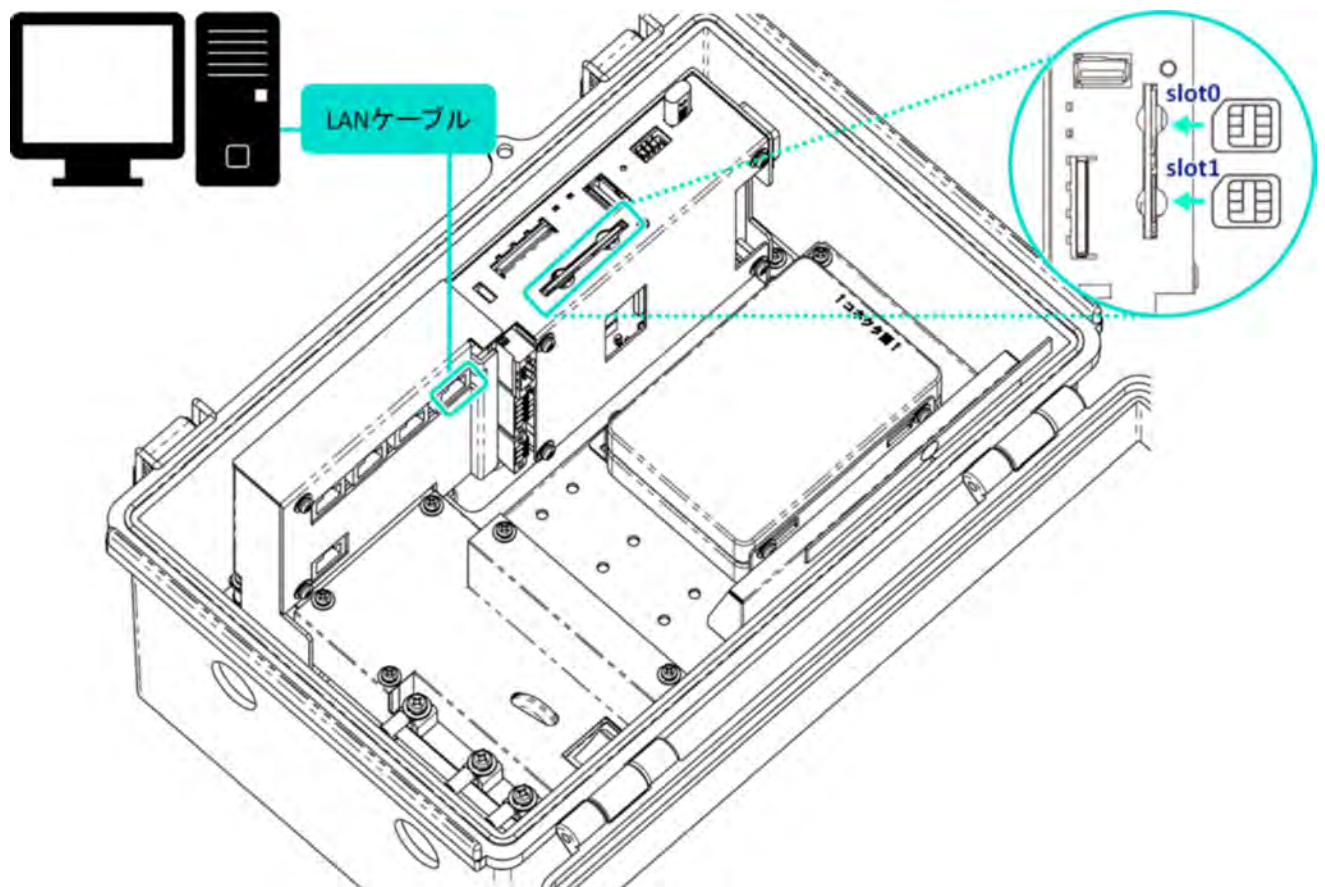
エッジゲートウェイ（屋外版）の場合

2024年7月12日

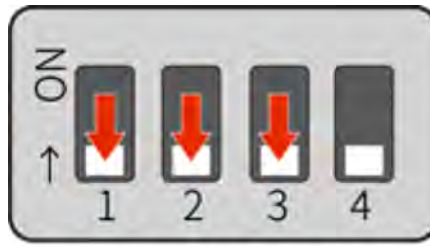
エッジゲートウェイに使用するSIMカードを挿入し、以下の図のようにPCとエッジゲートウェイのLAN0ポートをLANケーブルで接続します。

NOTE

SIMカードの接点が奥になるように差し込んでください。



2 エッジゲートウェイの上面にあるコンフィグレーション用DIPスイッチを、Linux起動モードに設定します。



Linux 起動モードの
DIP スイッチ設定

DIPスイッチ	説明
	ON状態
	OFF状態

DIPスイッチアイコンの説明

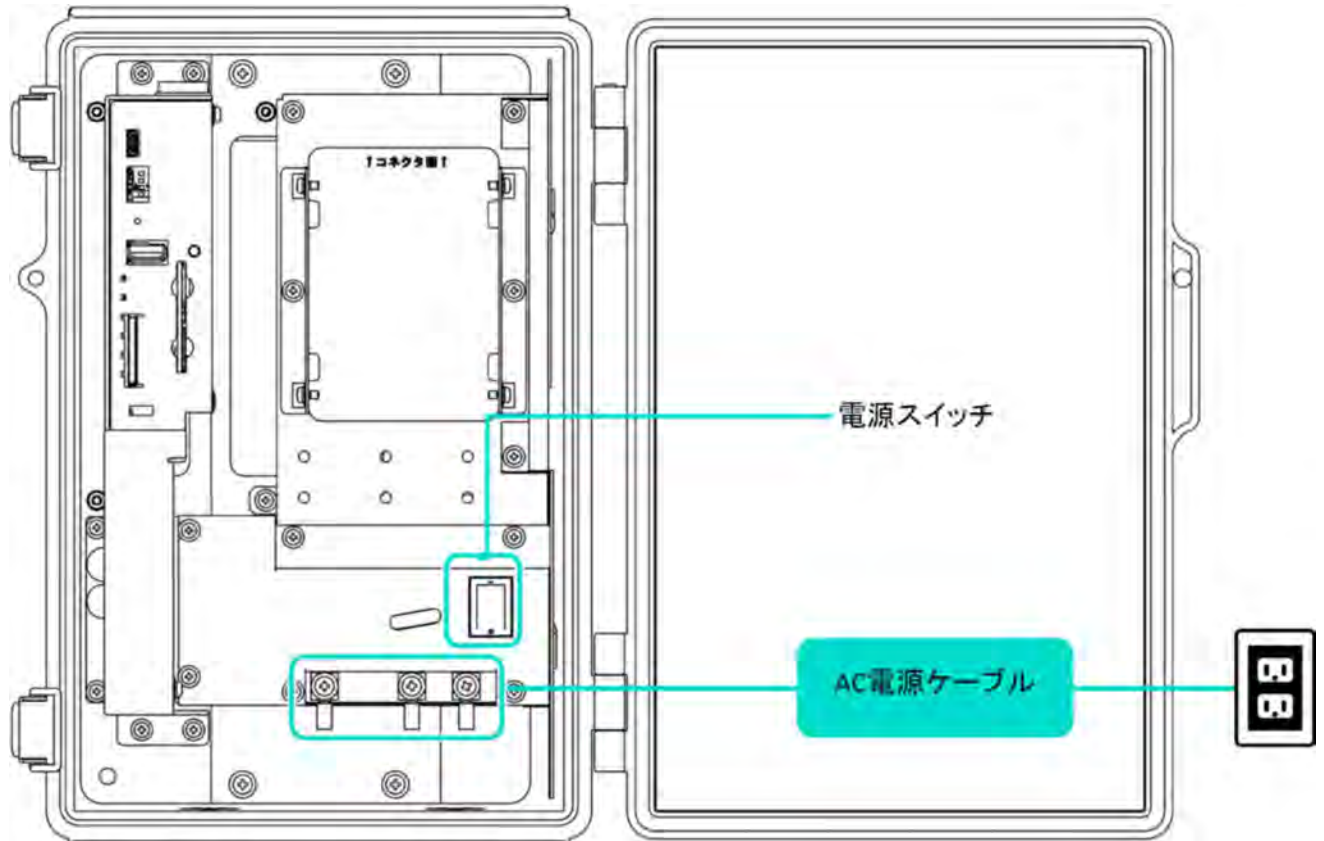
NOTE

No.4のDIPスイッチは、ONでもOFFでも構いません。ブートローダーでは参照しません（アプリケーション側でのみ使用します）。

エッジゲートウェイにAC電源ケーブルを接続します。

電源スイッチをオンにし、エッジゲートウェイを起動します。

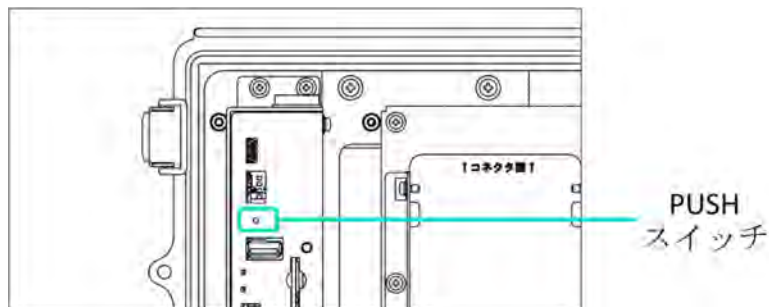
→ 詳しくは、製品に同梱の『[屋外タイプ設置ガイド](#)』をご参照ください。



💡 エッジゲートウェイ（屋外版）をシャットダウンするには

以下のいずれかの方法でシャットダウンすることができます。シャットダウン中にはLED PWRが点滅します。LED PWRが赤色に点灯したら、シャットダウンの完了です。

- 起動中に、本体のPUSHスイッチを、先端の尖った細いもので3秒以上押し込むことで、電源をOFFにする



- 以下のコマンドでシャットダウンする

→ コマンドの使い方は『[エッジゲートウェイシリーズ CLI ユーザーズマニュアル](#)』を参照してください。



```
admin@amnimo:~$ sudo systemctl poweroff
[sudo] password for admin:      ←rootのパスワードを入力してEnter
Stopping Docomo of user admin.
Stopping Unpack initramfs on shutdown...
```

(省略)

Starting Power-Off

NOTICE: You can turn off the power.

シャットダウン処理中のLED表示

項目	PWR	ANT	MOB	ST1	ST2	ST3	備考
シャットダウン処理中							500ms間隔
電源断可能状態							

! 自動起動機能に関する注意事項

- エッジゲートウェイは24時間稼働を目的としているため、障害発生時などにシャットダウンしても、自動的に回復する機能が備わっています。
- したがって、本節で説明している方法でエッジゲートウェイをシャットダウンしても、電源コネクタから電源が供給されている場合は、再起動します。
- エッジゲートウェイを電源断状態にしたい場合は、シャットダウンしてLEDが電源断可能状態（電源LEDが赤点灯）の状態になってから、電源プラグを引き抜いてください。

SSHの設定をする

2024年7月12日

SSHを利用してデバイスにログインするために、SSHの設定をします。

- 1 サイドメニューの「詳細設定・制御」 - 「SSH設定」をクリックします。



「SSH設定」画面が表示されます。

- 2 トグルをスライドし、SSHを有効に設定します。



3 ポートの設定をします。

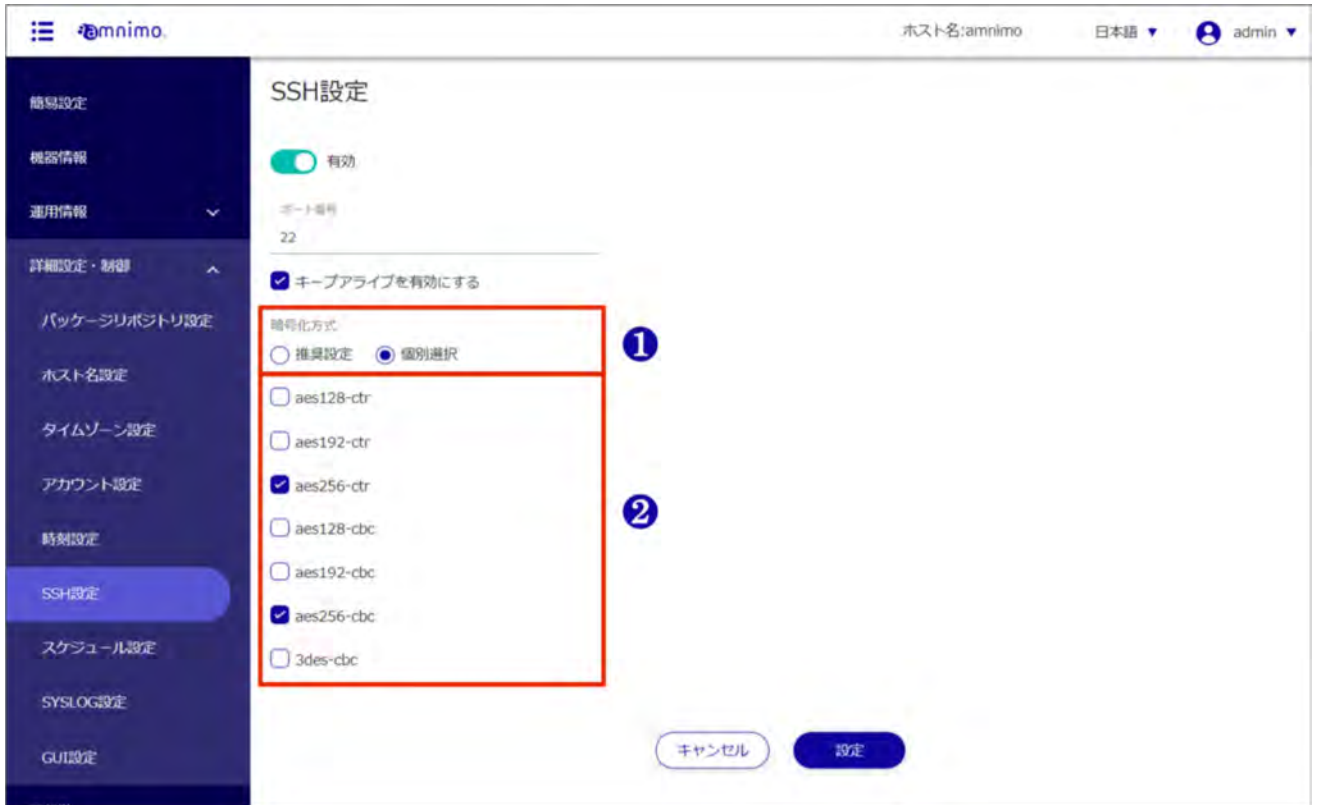


- 1 必要に応じて、ポート番号を変更します。

ポート番号は、1～65535の範囲で設定することができます。SSHでは標準で22番ポートを使用します。ポート番号を変更した場合、クライアントはそのポート番号を指定して接続する必要があるため、注意が必要です。

- 2 「キーアライブを有効にする」にチェックを付けることで、定期的にkeepaliveパケットを送信して、SSH接続がタイムアウトするのを防ぐことが可能です。

4 暗号化方式の設定をします。



- ① 使用する暗号化方式として、「推奨設定」または「個別選択」を選択します。
→ 「推奨設定」を選択した場合は、手順5に進んでください。
- ② 「個別選択」を選択した場合は、使用する暗号化方式にチェックを付けます。

5 **[設定]** をクリックします。



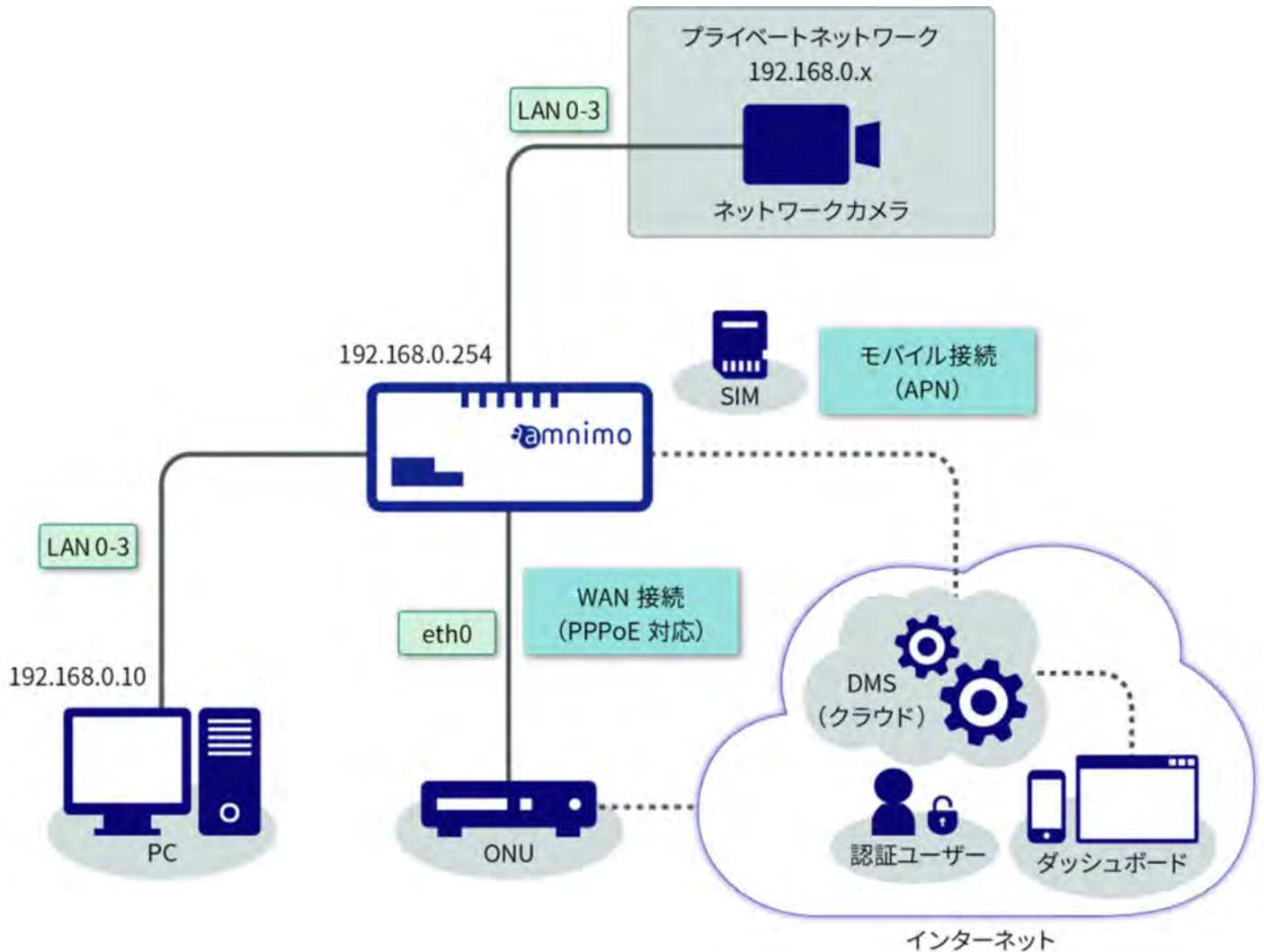
SSHの設定が保存されます。

システム全体図

2024年7月12日

本書では、以下のような構成のネットワークを例に、設定の方法を説明します。

- モバイル接続
SIMを利用してインターネットに接続します。
- WAN接続
eth0のインターフェースを利用してインターネットに接続します。
- LAN接続
LAN0~3のインターフェースを利用してプライベートネットワークにLAN接続します。



工場出荷時のネットワーク設定

```
eth0 : dhcpv4  
lan0:  
lan1:  
lan2:  
lan3:  
br0: 192.168.0.254/24  
- lan0/lan1/lan2/lan3
```

PC の IPアドレスを変更する

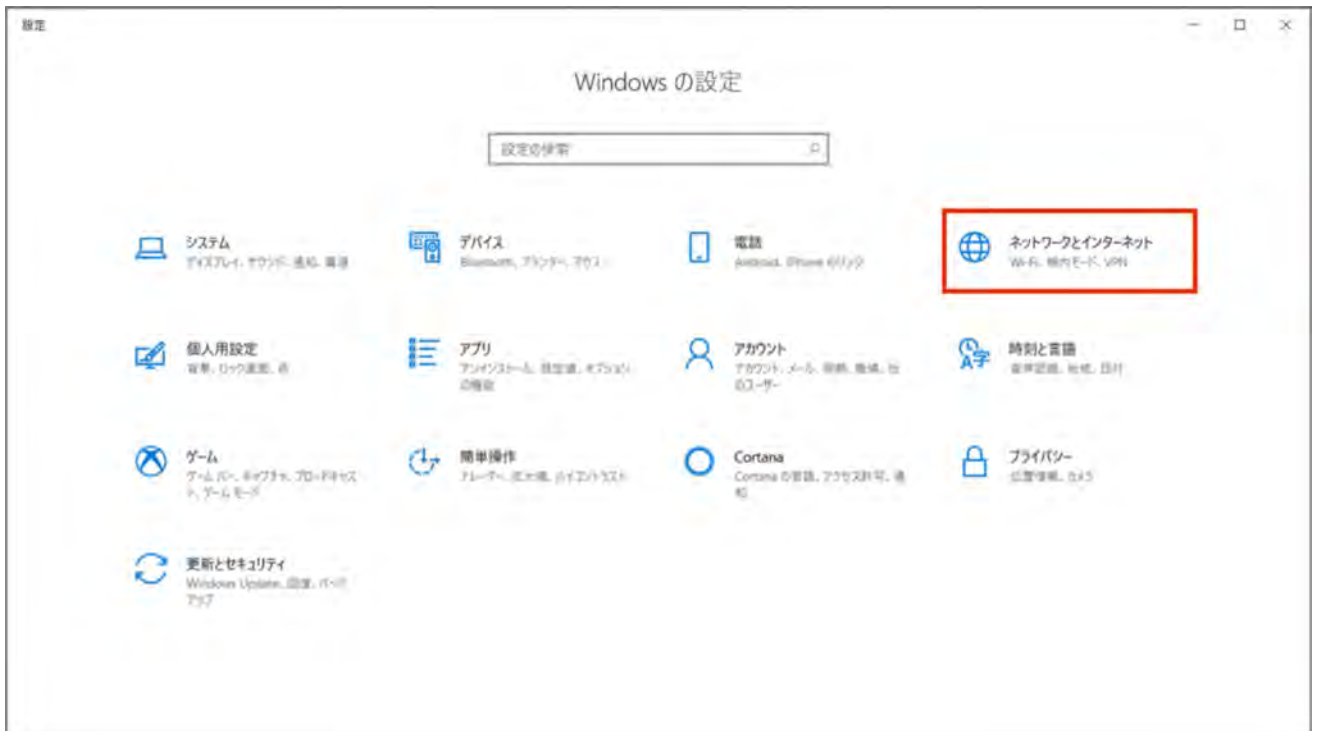
2024年7月12日

GUI設定画面にサインインするためには、デバイスとPCが同一ネットワークに所属している必要があります。ご利用のPCのIPアドレスを、デバイスのIPアドレス「192.168.0.254」にあわせて変更します。

NOTE

- 本書では、Windows 10を使用して説明しています。
- 本書では、デバイスのIPアドレス「192.168.0.254」に合わせて、ご利用のPCのIPアドレスを「192.168.0.10」に変更しています。

1 「Windowsの設定」で、[ネットワークとインターネット] をクリックします。



2 [ネットワークと共有センター] をクリックします。



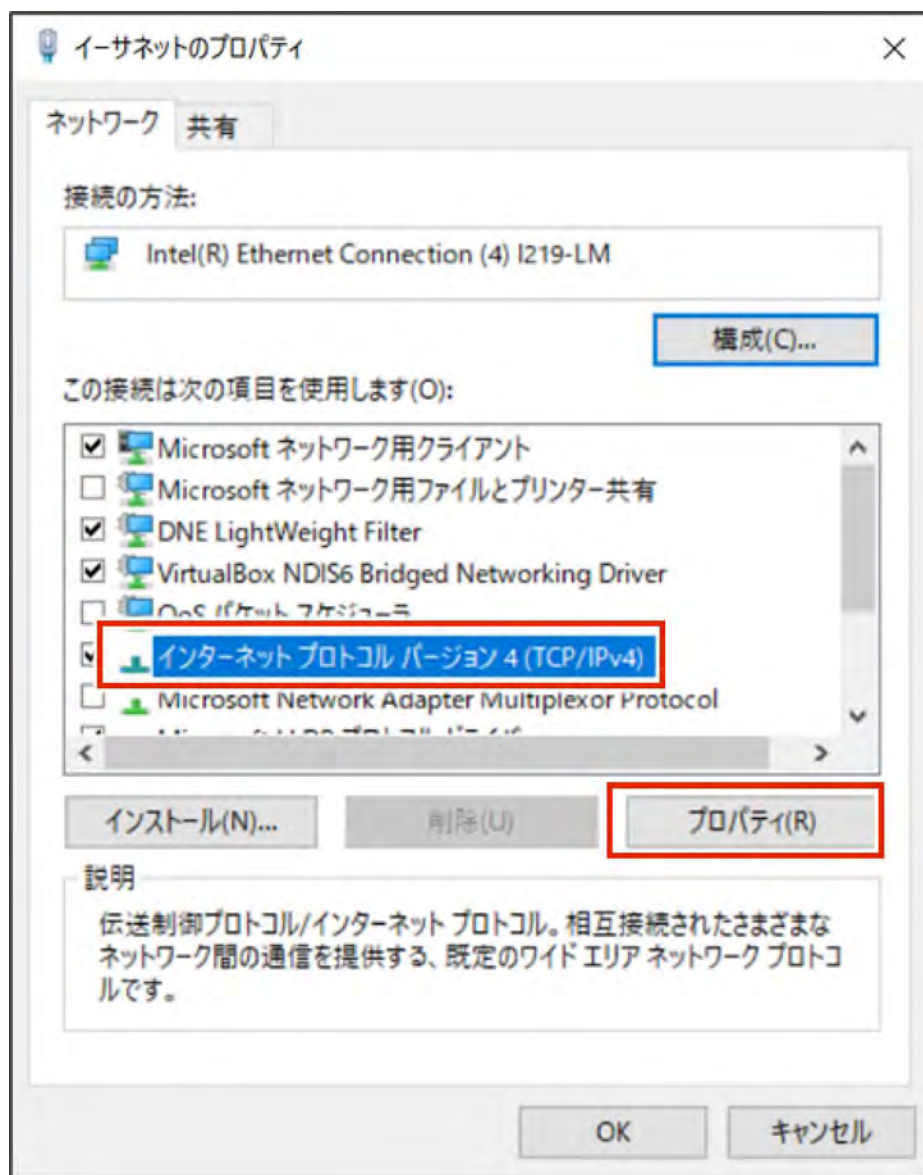
3 [アダプターの設定の変更] をクリックします。



4 [イーサネット] を右クリックし、表示されたメニューから [プロパティ] を選択します。

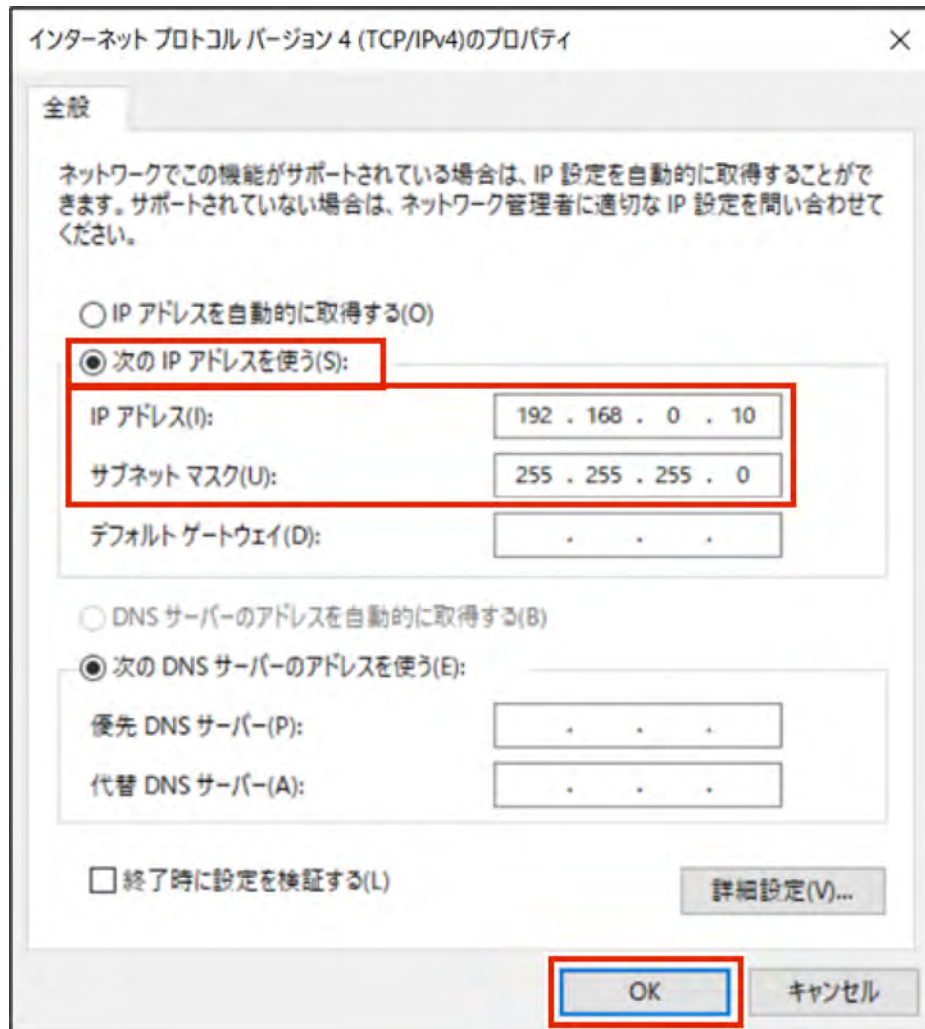


5 「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)」を選択し、[プロパティ] をクリックします。



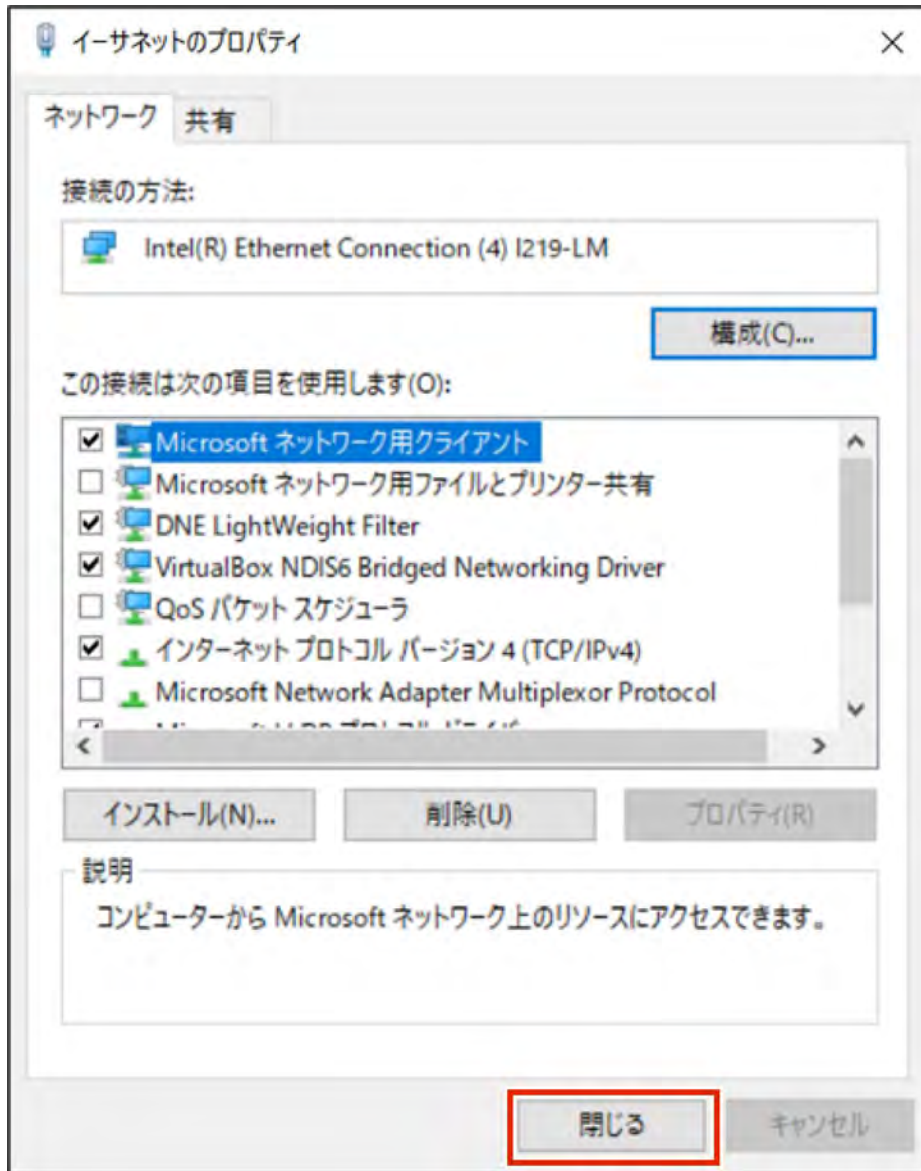
IPアドレスを設定します。

- 1 [次のIPアドレスを使う] を選択します。
- 2 「IPアドレス」に「192.168.0.10」と入力し、「サブネットマスク」に「255.255.255.0」と入力します。
- 3 [OK] をクリックします。



7 [閉じる] をクリックします。

IPアドレスが設定されます。



初回サインイン

2024年7月12日

本項では、GUI（Graphic User Interface）でのサインイン手順について説明します。

NOTE

GUIはブラウザから簡単にエッジゲートウェイの設定ができます。

サインインする

GUIで初めてサインインする場合は、管理者アカウント（admin）のパスワードを設定したあとにサインインします。

NOTE

GUI機能の動作確認済み環境は、以下のとおりです。

OS	ブラウザ	動作確認バージョン
Windows10 Pro2004（64bit）	Google Chrome	92.0.4515.131（64bit）
	Microsoft Edge	_※
	Firefox	_※
mac OS big Sur 11.2.3	Safari	14.0.3（16610.4.3.1.7）
	Google Chrome	_※
	Firefox	_※

※ 今後のリリースで対応予定

1 ブラウザーを起動し、本製品のGUI設定画面のURLにアクセスします。

<http://192.168.0.254>

「パスワード登録」画面が表示されます。

2 「パスワード」と「パスワード（確認用）」にadminに設定したいパスワードを入力して、[登録]をクリックします。

WARNING

パスワードには、以下の条件にあてはまる文字列を設定してください。文字列にはRFC1738で規定されている”password”が設定できません。

- 8文字以上
- 英大文字、英小文字、数字、記号の2種類以上を含む
- また、上記の条件を満たすパスワードでも、以下の条件にあてはまる場合、設定することはできません。
 - 辞書に含まれる単語（例：test）
 - 数字やアルファベットのキーボード配列（例：1234、abcde、qwerty）などの規則性がある言葉
 - 上記の組み合わせ（例：test1234）



adminのパスワードが設定され、「サインイン」画面が表示されます。

「ユーザー名」に「admin」、「パスワード」に手順2で設定したパスワードを入力して、[サインイン]をクリックします。



本製品へのサインインが完了すると、「機器情報」画面が表示されます。

簡易設定をする

2024年7月12日

「簡易設定」画面で、以下の設定をすることができます。

- モバイル通信設定
- インターフェース設定
- パッケージリポジトリの認証情報
- DNSの有効化/無効化
- フィルター
- DMS (デバイス管理システム) の有効化/無効化
- Nx Witnessの有効化/無効化

NOTE

- 本ページは AG、AR、AX シリーズ共通です。
- IoTルーターでAR10-000JP (通信モジュール非搭載)モデルご利用の場合、モバイル通信設定作業は不要です。

なお、簡易設定をすると、DNSの設定およびフィルタリングの設定が自動で適用されます。自動で適用されるDNSおよびフィルタリングの設定内容は、以下のとおりです。

詳細設定をする場合は、以下のマニュアルを参照してください。

→ 『[エッジゲートウェイシリーズ GUI ユーザーズマニュアル](#)』の『[フィルター設定をする](#)』 『[DNS設定をする](#)』

機能	項目	設定値
DNS	有効無効設定	有効
フィルタリング入力設定	入力デフォルトポリシー related established invalid 入力インターフェース	破棄 許可 許可 破棄 許可
フィルタリング転送設定	転送デフォルトポリシー	許可
フィルタリング出力設定	出力デフォルトポリシー	許可

NOTE

ご利用のエッジゲートウェイのバージョンが V1.1.2 以前の場合は、DNSサーバーのデフォルト設定は無効です。また、GUI機能はありません。

V1.1.2 から V1.2.1 以降にアップデートすると、DNSが未設定の場合は、DNSが無効になります。また、GUIは無効

になります。

バージョンの確認方法については、以下のマニュアルを参照してください。

→ 『[エッジゲートウェイシリーズ GUI ユーザーズマニュアル](#)』の『[機器情報を確認する](#)』

簡易設定の手順

! WARNING

「簡易設定」画面でモバイル通信設定を行う場合、SIMは **slot0** にセットした状態で実施する必要があります。slot0 に正しくセットされていない場合や、slot1 にセットした状態で実施すると、フェイルセーフ機能により端末が再起動してしまいますのでご注意ください。

1 サイドメニューの「簡易設定」をクリックします。



「簡易設定」画面が表示されます。

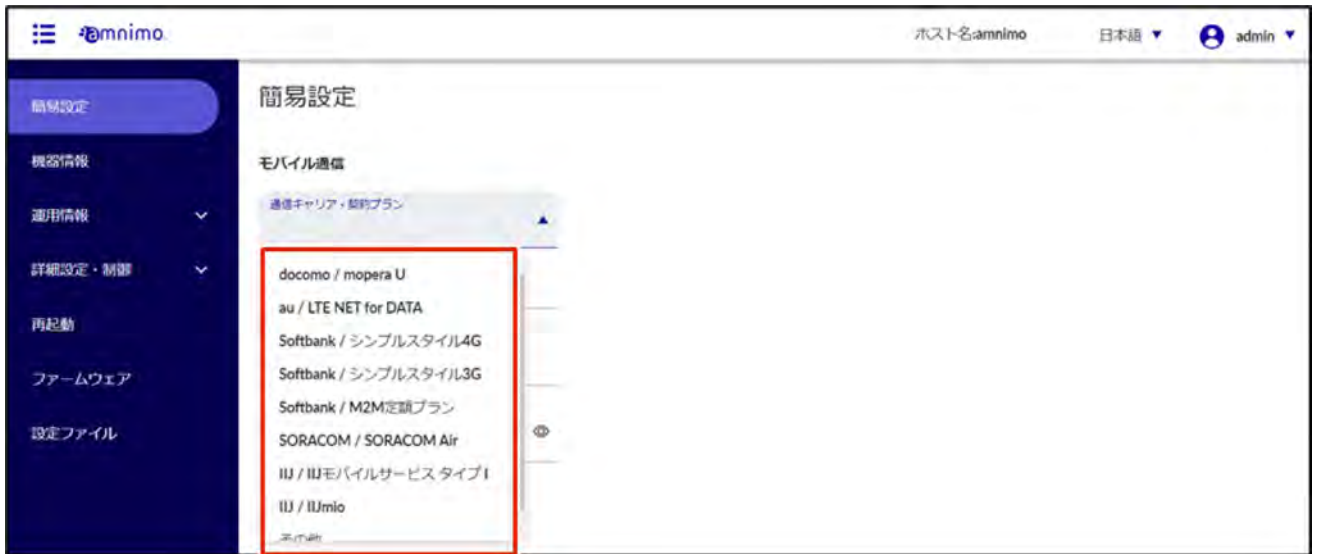
2 モバイル接続ご利用の場合は、モバイル通信設定の「通信キャリア・契約プラン」から登録済みの通信キャリアまたは契約プランを選択します。

選択した通信キャリアまたは契約プランに応じて、「APN名」「アカウント」「パスワード」「認証方式」が自動的に設定されます。

NOTE

- 「通信キャリア・契約プラン」に使用する通信キャリア／契約プランが登録されていない場合は、[その他]を選択してください。
- 認証する必要のないSIMを使用する場合は、「認証方式」で「PAP」と「CHAP」の両方のチェックをはずしてください。

- AR10-000JP (通信モジュール非搭載)モデルご利用の場合、手順 1 と 2 は不要です。



! WARNING

モバイル設定を誤って設定すると、フェイルセーフ機能によってコンパクトルーターが再起動する場合があります。

- 設定の際は、ユーザー名やパスワードを正しく設定してください。
- コンパクトルーターが再起動を繰り返すときは以下のページを参照してください。

→ 『[デバイスが再起動を繰り返す](#)』

✎ NOTE

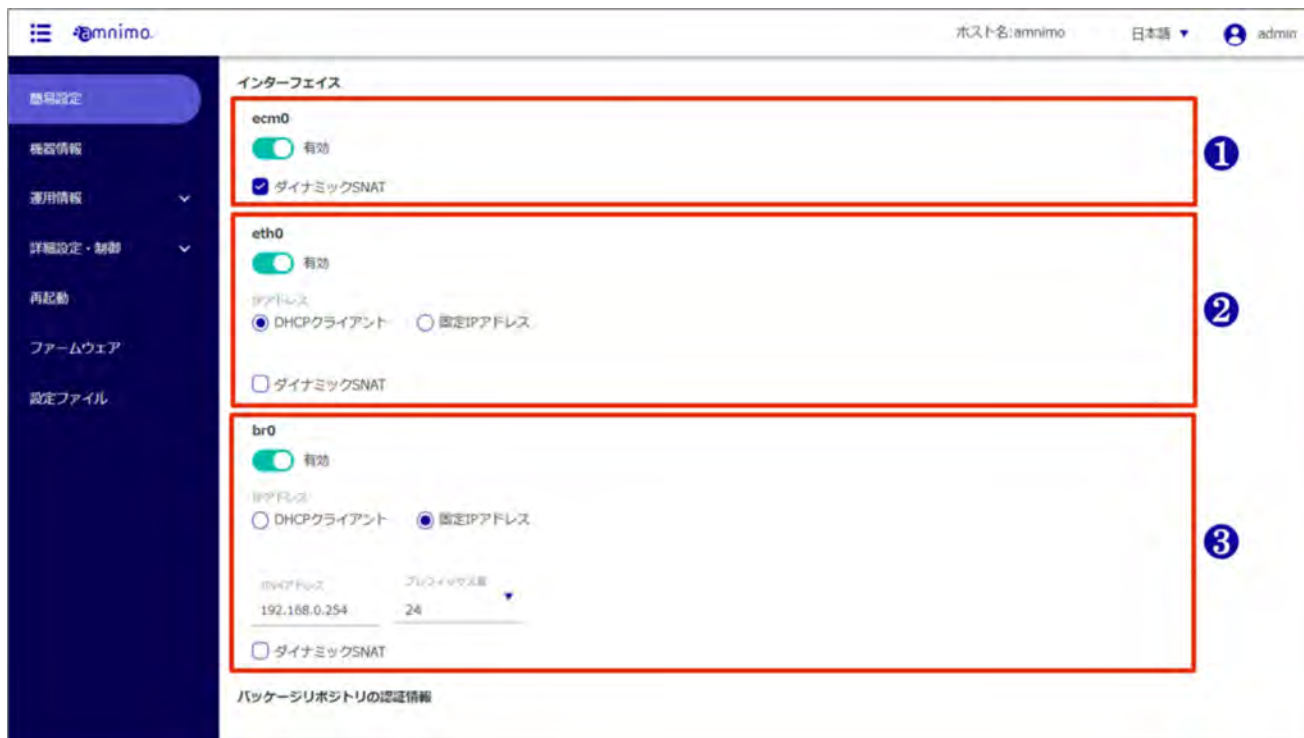
モバイル接続設定については、以下のページで動画でも解説しています。

→ 『[Amnimoのデバイスをインターネットに接続する](#)』

環境に応じて、インターフェースの設定をします。

✎ NOTE

デバイス毎にインターフェースの名称が異なります。設定の際は、それぞれ読み替えてください。



- 1 モバイル接続の際に必要な「ecm0」の設定をします。

トグルをクリックして、有効または無効に設定します。
また、必要に応じて、「ダイナミックSNAT」にチェックを付けます。

- 2 WAN接続の際に必要な「eth0」の設定をします。

トグルをクリックして、有効または無効に設定します。
「IPアドレス」を割り当てる方法として、「DHCPクライアント」または「固定IPアドレス」を選択します。「固定IPアドレス」を選択した場合は、「IPアドレス」と「ネットマスク」を入力する必要があります。
また、必要に応じて、「ダイナミックSNAT」にチェックを付けます。

- 3 LAN接続の際に必要な「br0」または「eth1」の設定をします。

トグルをクリックして、有効または無効に設定します。
「IPアドレス」を割り当てる方法として、「DHCPクライアント」または「固定IPアドレス」を選択します。「固定IPアドレス」を選択した場合は、「IPアドレス」と「ネットマスク」を入力する必要があります。

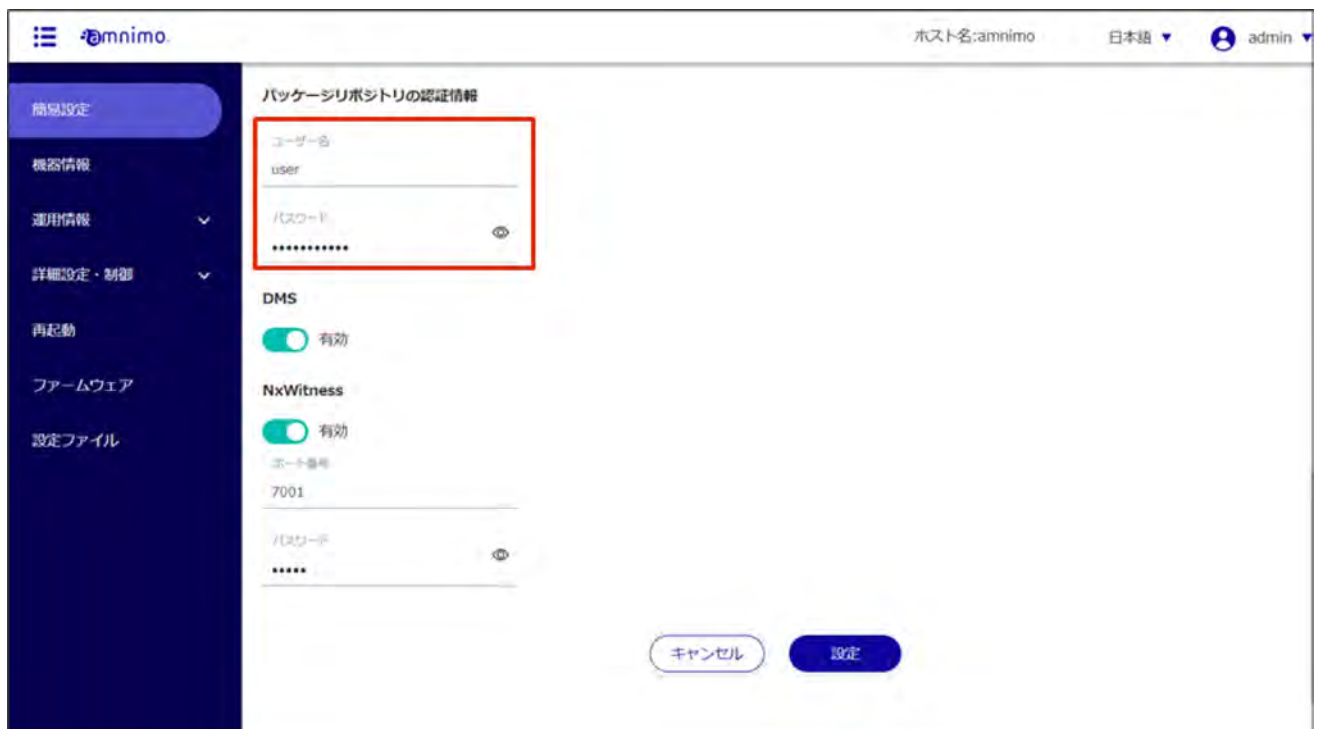
あります。

また、必要に応じて、「ダイナミックSNAT」にチェックを付けます。

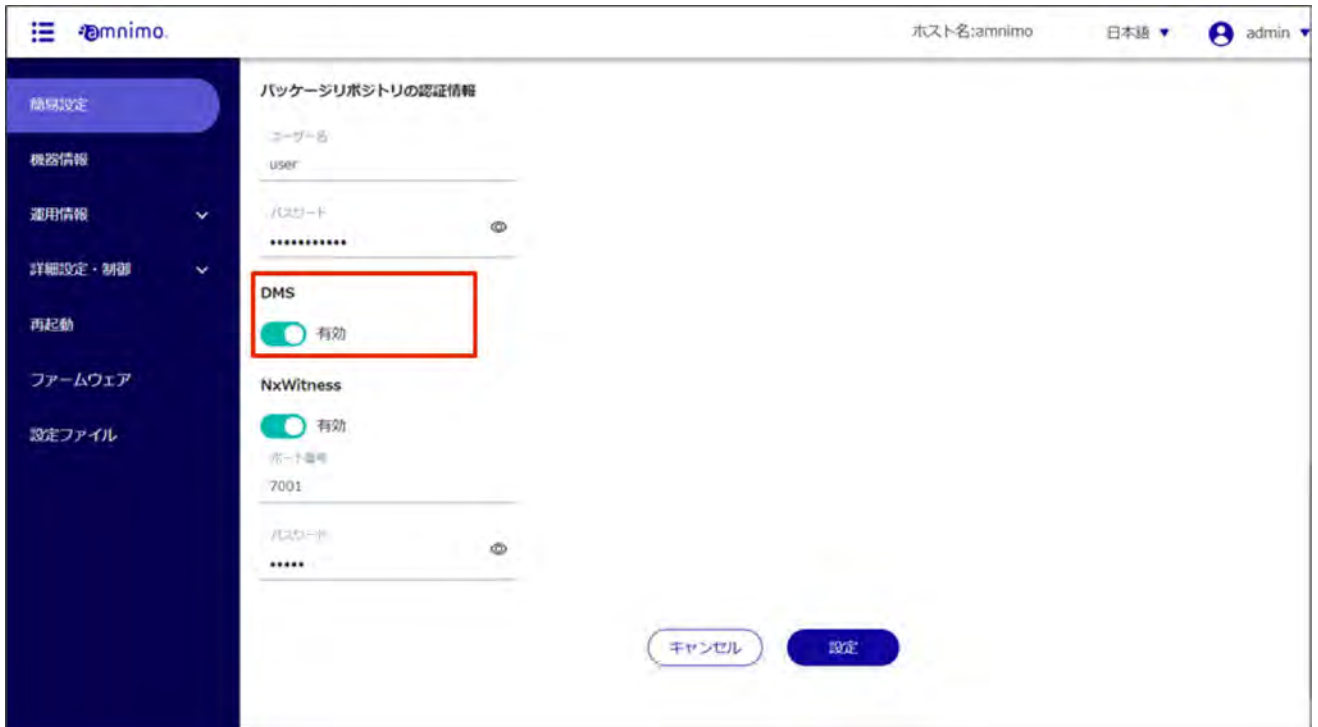
4 **パッケージリポジトリの認証情報として、「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。**

NOTE

パッケージリポジトリの認証情報は、ファームウェア更新が必要な場合のみ設定する必要があります。認証情報（ユーザー名とパスワード）をご希望の方は、弊社サポートにお問い合わせください。



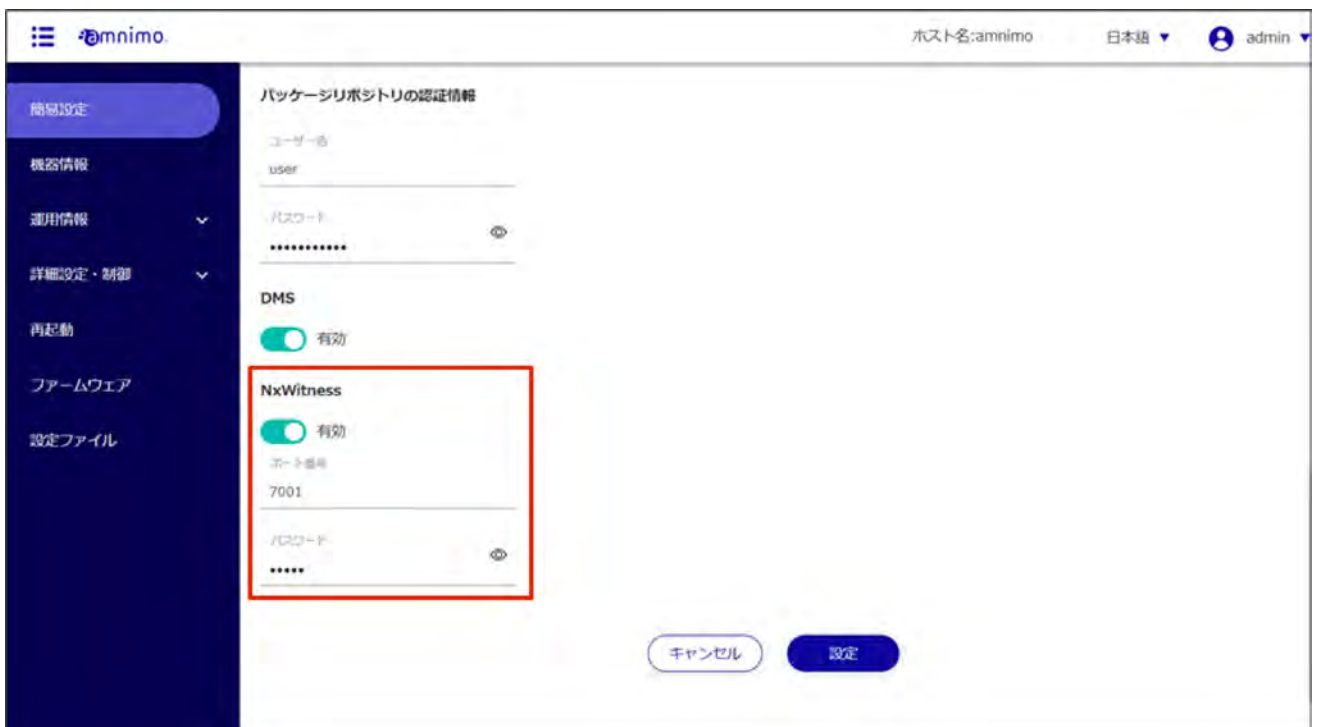
5 **DMSの設定をします。トグルをスライドして、DMSを有効または無効に設定します。**



6 Nx Witnessの設定をします。トグルをスライドして、Nx Witnessを有効または無効に設定します。

NOTE

Nx Witnessを有効に設定した場合、必要に応じて「ポート番号」と「パスワード」を設定します。



7 画面を一番下までスクロールし、**【設定】**をクリックします。



設定の確認画面が表示されます。

8 **【設定】**をクリックします。



設定が保存されます。

- 9 サイドメニューの「運用情報」 - 「モバイル通信」をクリックし、モバイル通信の状態を確認します。



通信モジュールの状態	意味
dialing	接続処理中
connected	接続状態
disconnected	切断状態

! WARNING

モバイル設定に誤りがある場合など接続が正常に行われていない場合、フェールセーフ機能により機器が自動的に再起動することがあります。ご注意ください。

💡 GUIのプロトコルとポート番号を変更するには

GUIのサイドメニューで「詳細設定・制御」 - 「GUI設定」を選択すると、GUI設定で使用するプロトコルとポート番号を変更することができます。

→ 詳しくは、『[GUI ユーザーズマニュアル](#)』を参照してください。

時刻を設定する

2024年7月12日

デバイスのタイムゾーンおよび時刻の設定をします。

NOTE

本書では、PCと時刻を同期する例について説明しています。
時刻設定に関してはNTP設定で時刻を同期する方法を推奨していますが、手動での入力も可能です。

→ 詳細については、『[GUI ユーザーズマニュアル](#)』を参照してください。

タイムゾーンを設定する

- 1 サイドメニューの「詳細設定・制御」 - 「タイムゾーン設定」をクリックします。



「タイムゾーン設定」画面が表示されます。

- 2 タイムゾーンを設定します。



- ① 「地域」を選択します。
- ② 「地名」を選択します。
- ③ 「設定」をクリックします。

タイムゾーンが設定されます。

時刻を設定する

サイドメニューの「詳細設定・制御」 - 「時刻設定」をクリックします。

「時刻設定」画面が表示されます。



2 「時刻設定」画面で、「NTP設定」をクリックします。



3 トグルをスライドして有効にします。



4

設定内容を変更します。

NOTE

NTPサーバーに関して、アムニモではGoogle Public NTP (time.google.com) や、NICT公開NTPサービス (ntp.nict.jp) を推奨しています。各サービスの利用規約や注意事項については以下をご覧ください。

- Google Public NTP : <https://developers.google.com/terms/>)
- NICT公開NTPサービス : <https://jy.nict.go.jp/tsp/PubNtp/qa.html>)

また本手順で設定した場合、NTPの時刻同期は以下の間隔で実施されます（本値はCLIから変更可能です）。

- ネットワーク接続が開始した直後：64s間隔
- その後、徐々に間隔を大きくしながら時刻同期を継続的に実施
- 最終的に、定期的に同期を行う間隔：1024s



- ① NTP同期に使用するインターネット通信が行われるインターフェースを選択します。

モバイル通信の場合は「ecm0」や「rmnet_data0」等を選択します。

- ② 同期するサーバーのURLを記載します。
- ③ ポート番号を指定します。デフォルト値で問題が無ければ変更不要です。

[設定] をクリックします。

時刻設定が保存されます。



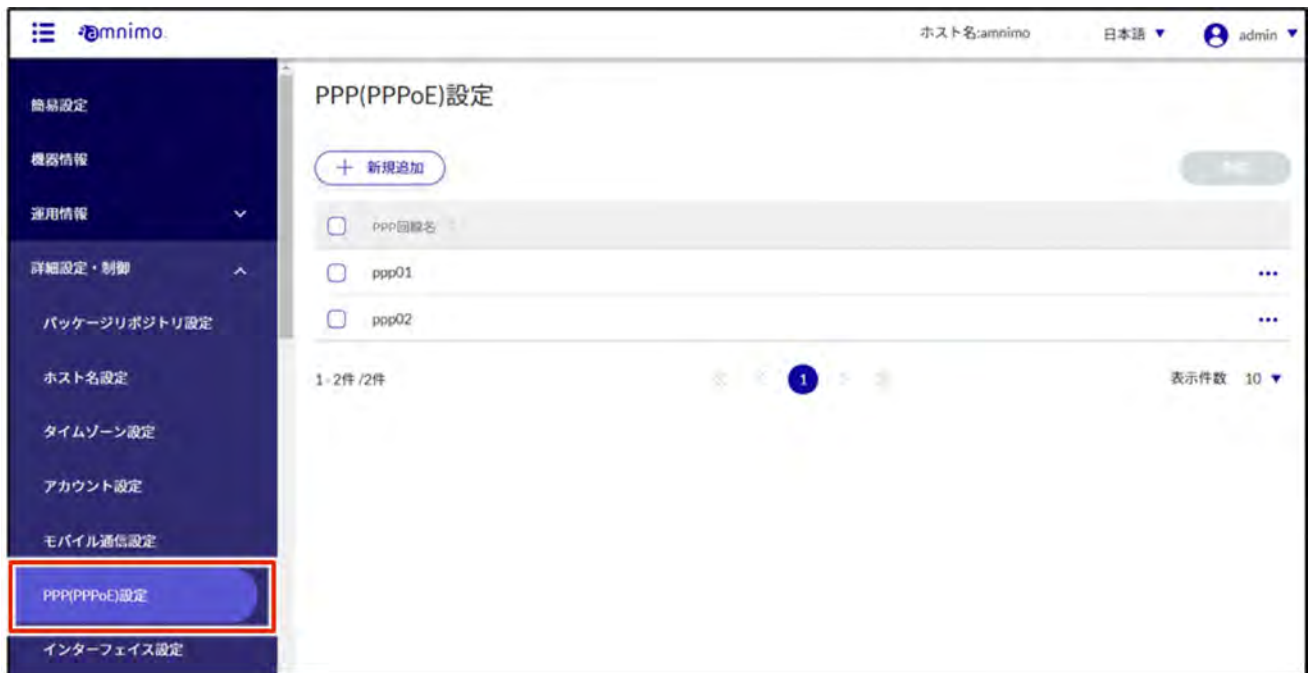
PPPの設定をする

2024年7月12日

PPPを利用してインターネットに接続する場合は、PPP接続の設定をします。ご利用の環境に合わせ、必要に応じて設定してください。

1 サイドメニューの「詳細設定・制御」 - 「PPP(PPPoE)設定」をクリックします。

「PPP(PPPoE)設定」画面に、登録されているPPP (PPPoE) 設定が一覧表示されます。



NOTE

PPP (PPPoE) の一覧で「PPP回線名」のタブをクリックすることで、PPP回線名の降順／昇順で登録されているPPP (PPPoE) を並び替えることができます。



2 「PPP(PPPoE)設定」画面で、「新規追加」をクリックします。

「PPP(PPPoE)設定の追加」画面が表示されます。



3 PPP (PPPoE) の設定をします。



- ① PPP回線名を入力します。
- ② メッセージ出力レベルを選択します。
- ③ 認証方式を選択します。
- ④ ユーザー名とパスワードを入力します。

4 **[設定]** をクリックします。



PPP (PPPoE) の設定が追加されます。



ストレージ設定をする

2024年7月12日

SSDストレージ付きのエッジゲートウェイをご利用の場合、ストレージの設定をする必要があります。本ステップでは、ストレージをマウントして利用できるようにする手順について説明します。

NOTE

この機能を利用するには、管理者としてサインインしている必要があります。

サイドメニューの「詳細設定・制御」 - 「ストレージ設定」をクリックします。

「ストレージ設定」画面に、本製品に登録されているストレージ設定の一覧が表示されます。



NOTE

ストレージ設定一覧の「パーティション」や「ファイルシステム」などのタブをクリックすることで、各項目の降順／昇順でストレージ設定一覧を並び替えることができます。



2 **【新規追加】をクリックします。**

「ストレージ設定の追加」画面が表示されます。

3 **ストレージの設定をします。**

 **NOTE**

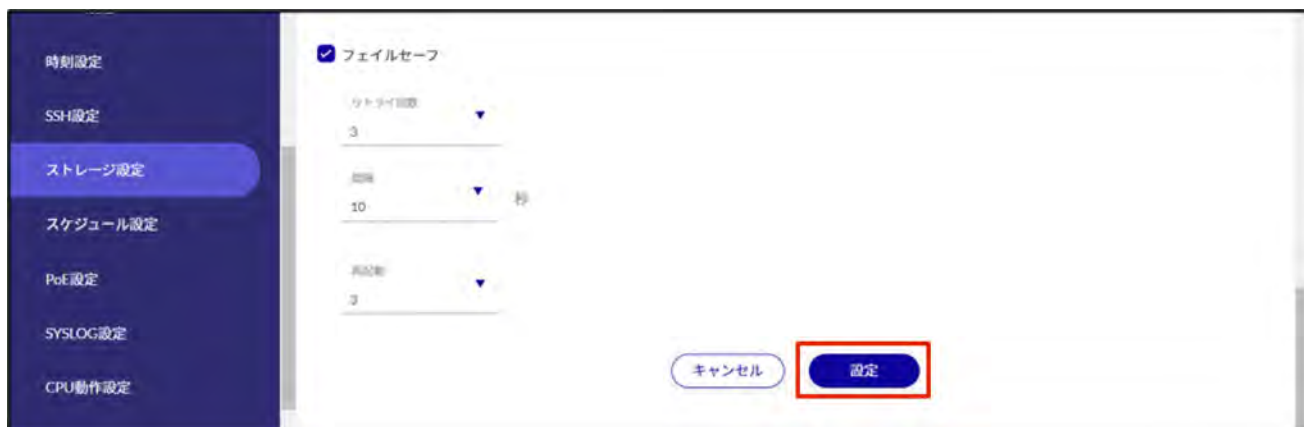
本書では、以下のように設定をします。パーティション「sda1」マウントポイント「/media/ssd」ファイルシステム「ext4」詳細な設定については、『[エッジゲートウェイシリーズ GUI ユーザーズマニュアル](#)』の『[ストレージ設定をする](#)』を参照してください。



- ❶ パーティション「sda1」を選択します。
- ❷ マウントポイント名として「/media/ssd」を指定します。
- ❸ ファイルシステムで「ext4」を選択します。

④ マウントオプションを選択します。

4 [設定] をクリックします。



ストレージの設定が追加されます。

デバイスに設定内容を保存する

2024年7月12日

GUIで設定した内容を保存するため、デバイスの設定ファイルに設定内容を書き込みます。

デバイスを再起動したときに設定ファイルが読み込まれ、設定内容が反映されます。

1 サイドメニューの「設定ファイル」をクリックします。

「設定ファイル」画面が表示されます。



2 「現在の設定をデバイスに保存」をクリックします。



「確認」画面が表示されます。

3 「保存する」をクリックします。



設定がデバイスに保存されます。

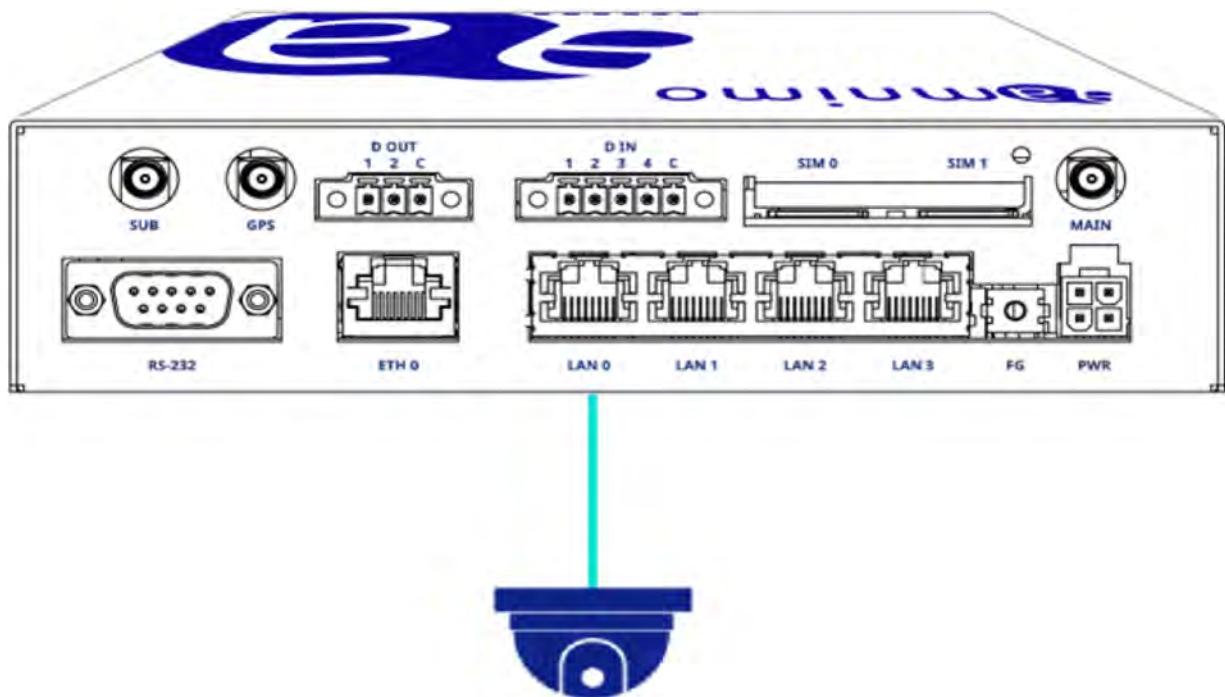
ネットワークカメラと接続する

2024年7月12日

以下の図のように、ネットワークカメラとエッジゲートウェイをLANケーブルで接続します。

NOTE

- ネットワークカメラの設定については、ご使用のカメラのマニュアルを参照してください。
- ご利用のネットワーク環境やセキュリティ設定によっては、カメラが認識しないことがあります。その場合、VPNの環境やPCのセキュリティ設定などをご確認ください。



NOTE

- PoEに対応しているカメラであれば、エッジゲートウェイのPoE（Power of Ethernet）の機能によって、カメラに給電することができます。
- PoEを利用する場合、PoEの仕様は以下のとおりです。
 - LAN 0～3で使用する電力の合計は40Wまで
 - 1つのポートで使用する最大電力は25Wまで
- PoEを利用する場合、CAT 5e（カテゴリー5e）以上のLANケーブルが必要です。
- PoEの設定については、以下のマニュアルを参照してください。

→ [『エッジゲートウェイシリーズ GUIユーザーズマニュアル』](#)

デバイスが再起動を繰り返す

2024年7月12日

モバイル通信設定が正しく行えない場合に、フェイルセーフ機能によりデバイスが再起動を繰り返すことがあります。以下の点について確認してください。

フェイルセーフを無効にする

以下の①～⑤の順に確認してください。

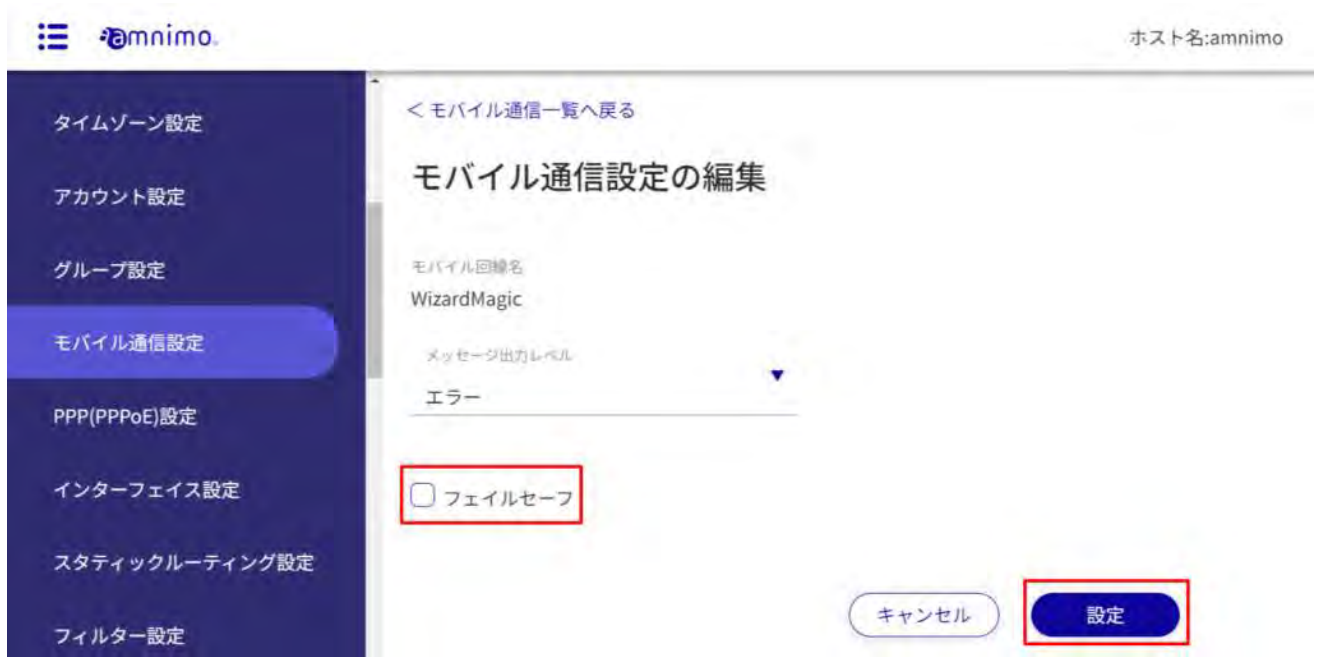
- 1 サイドメニューの「詳細設定・制御」 - 「モバイル通信設定」をクリックします。



- 2 対象のモバイル回線名を選択し、[...] - [編集]をクリックします。



3 [フェイルセーフ]のチェックを外し、[設定]をクリックします。



4 同ページ内のセッション一覧にある、対象のセッション名を選択し、[...] - [編集]をクリックします。



5 正しい内容に設定し、[設定]をクリックします。



疎通状況を確認する

サイドメニューの [運用情報] - [モバイル通信] をクリックし、”モバイルモジュールの状態” が ”connected” となっていることを確認します。



通信が確認できたら、必要に応じてフェイルセーフを有効に戻してください。

VMS の種類

2024年7月12日

アムニモは、ネットワークカメラの管理ツールとして、2種類の Video Management System (VMS) を採用しています。

- Nx Witness ([Network Optix 社](#))
- amnimo VMS (アムニモ)

Nx Witness

Nx Witness は、以下の4つの主要なコンポーネントから構成されるVMSです。

- メディアサーバー
- デスクトップクライアント
- モバイルクライアント
- クラウド

エッジゲートウェイには、事前にメディアサーバーがインストールされています。メディアサーバーでは、カメラから映像を取得したり、カメラを設定したりすることができます。

また、簡単な設定で、デスクトップクライアントなどからメディアサーバーにアクセスして、カメラの映像や録画ビデオを閲覧することができます。また、クライアントからサーバーやカメラの管理をすることもできます。

アムニモの統合ビデオ管理システムでは分散配置された複数のメディアサーバーのカメラ映像や録画ビデオを遠隔から統合管理することができます。

amnimo VMS

amnimo VMS は、アムニモの統合ビデオ管理システムを通してカメラ映像や録画ビデオを閲覧するためにアムニモが独自開発したVMSです。

事前にamnimo VMSサーバーがインストールされており、エッジゲートウェイの設定により amnimo VMSを有効にすることによって使うことができます。このサーバーではカメラから映像を取得したり、その映像をエッジゲートウェイに録画することができます。

アムニモの統合ビデオ管理システムでは、分散配置された複数の amnimo VMS サーバーに接続されたカメラの管理、カメラ映像や録画ビデオの閲覧・取得を統合管理することができます。

Nx Witnessの設定をする

2024年7月12日

NOTE

- Nx witness を利用せず、amnimo VMS を利用するお客様は、Nx Witness の設定は不要です。
『[amnimo VMSの設定をする](#)』からはじめてください。
- Nx Witnessの詳しい利用方法や設定内容については、以下のマニュアルを参照してください。

→ 『[Nx Witness VMS Guide](#)』

デスクトップクライアントをインストールする

ここでは、Windows PCにNx Witnessデスクトップクライアントをインストールする方法について説明します。

1 Windows版のNx Witnessデスクトップクライアントのインストールパッケージをダウンロードします。

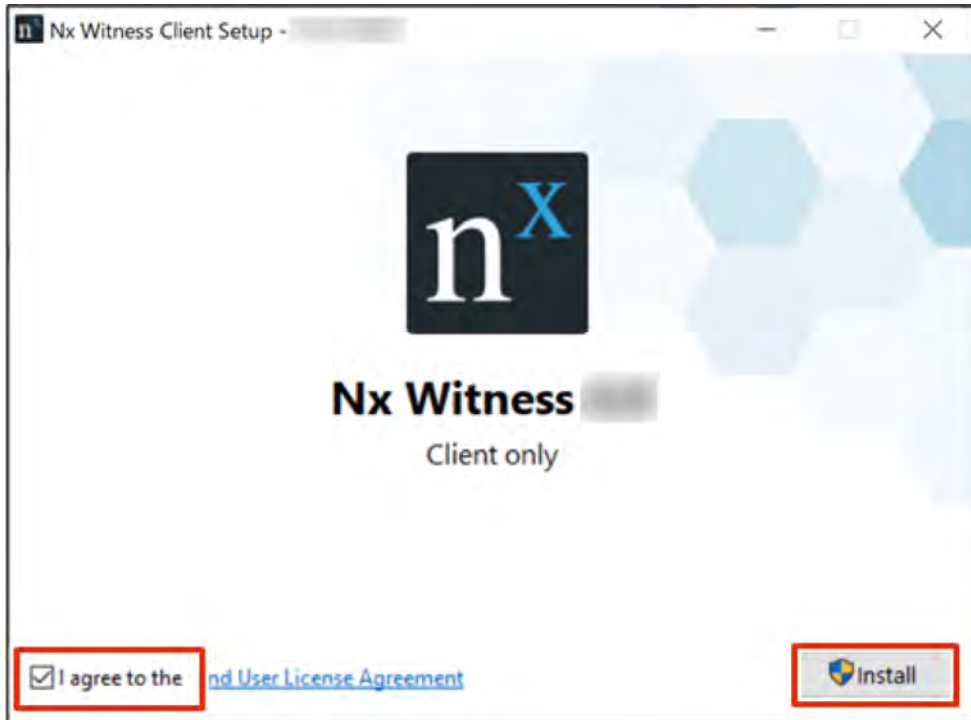
NOTE

- 使用環境にあったクライアントのバージョンとダウンロード先は、以下のページで確認することができます。
<https://support.amnimo.com/hc/ja/articles/360050747073>
- ダウンロードの際は、必ずClient Installerを選択してください。
- メーカーの都合によりインストール画面のデザインが変わる可能性があります。

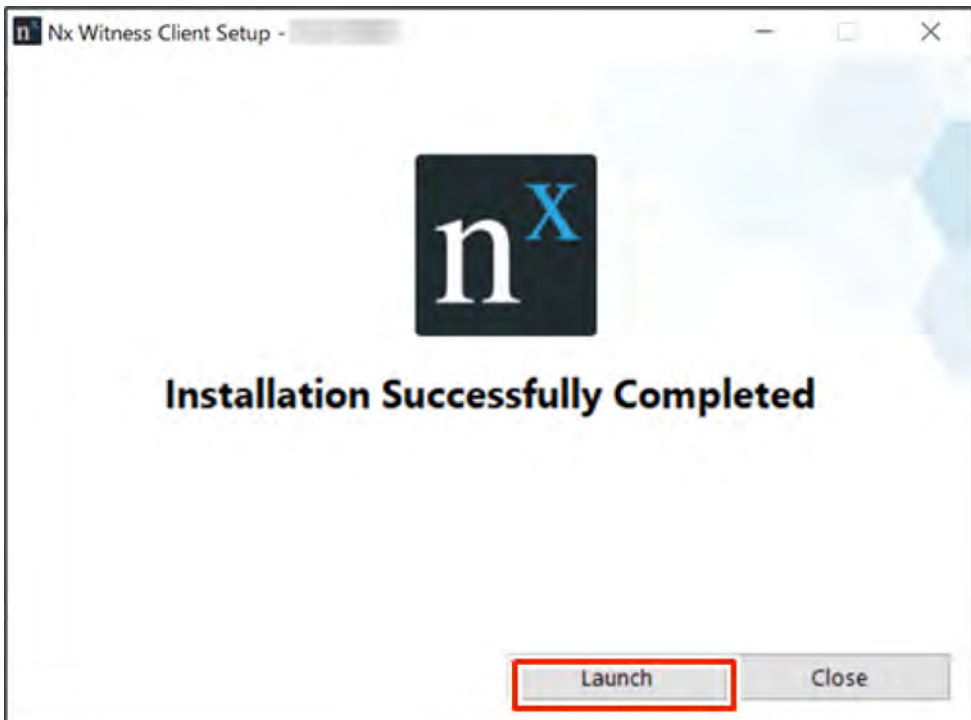
2 Windows PCで、ダウンロードしたインストールパッケージ（exeファイル）をダブルクリックします。

インストーラーが起動します。

3 使用許諾に同意し、[Install] をクリックします。



4 インストールが完了したら、【Launch】をクリックします。



Nx Witnessデスクトップクライアントが起動します。

日本語表示にする

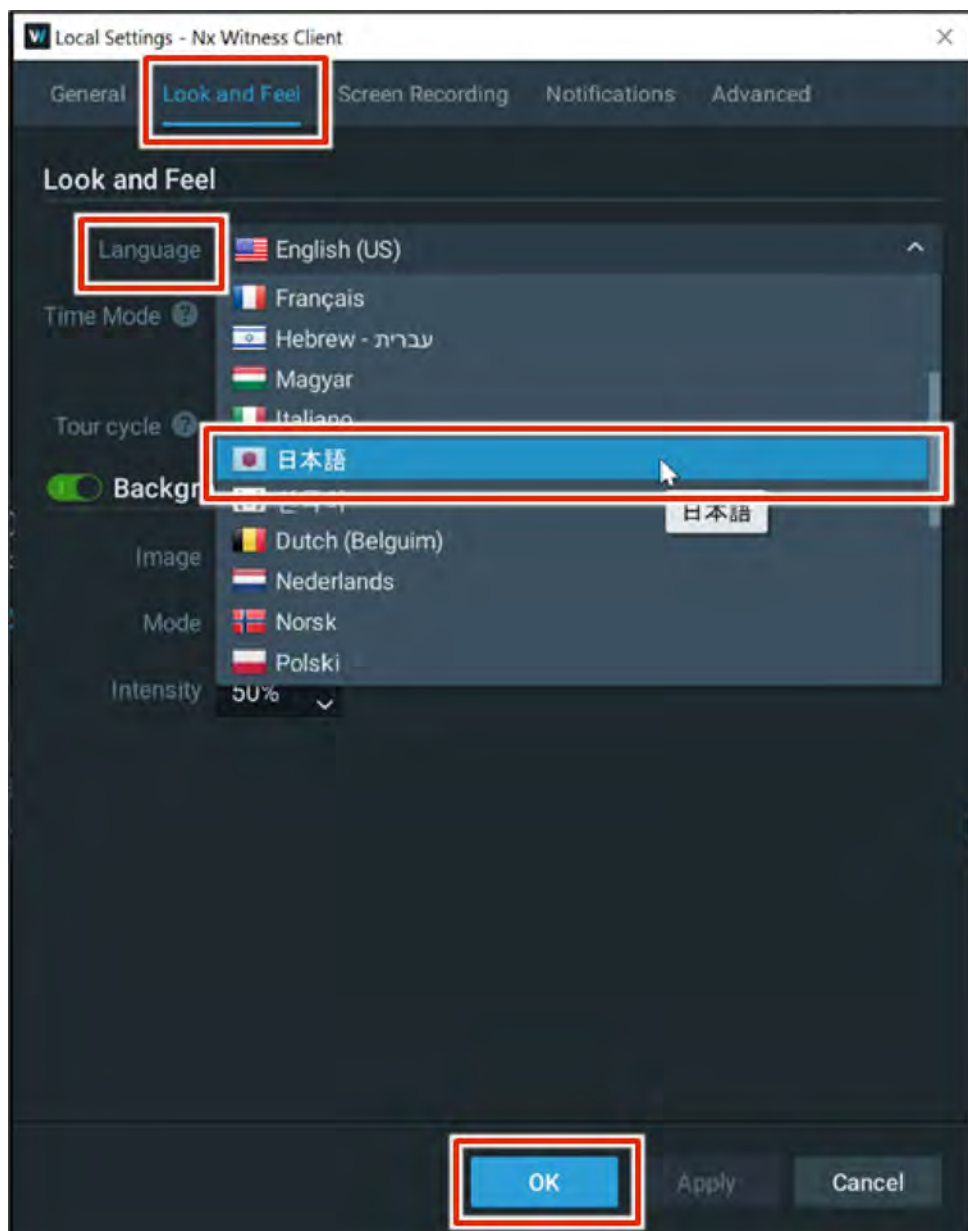
Nx Witnessは日本語で表示することができます。必要に応じて設定してください。

Nx Witnessの画面左上にあるメニューボタンをクリックし、【Local Setting...】をクリックします。



2

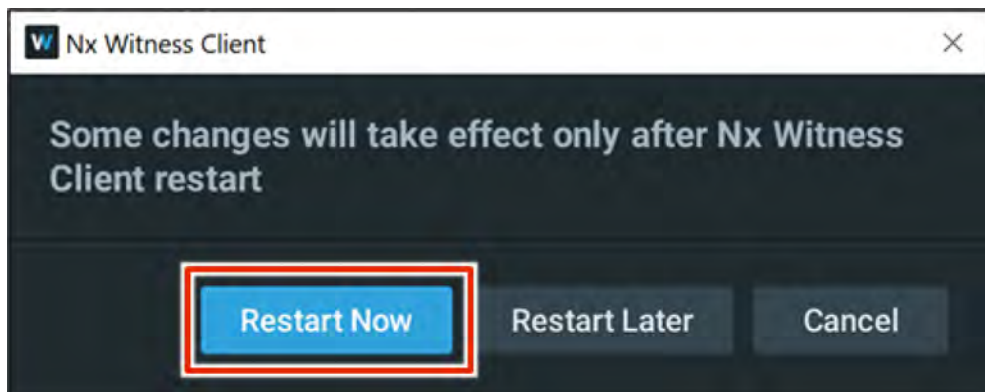
日本語表示の設定をします。



- ① [Look and Feel] をクリックします。
- ② [Language] をクリックして、[日本語] を選択します。
- ③ [OK] をクリックします。

再起動の確認ダイアログが表示されます。

3 **[Restart Now] をクリックします。**



Nx Witnessが再起動します。

再起動すると、日本語表示の設定が反映されます。

メディアサーバーに接続する

エッジゲートウェイと同一ネットワークにあるPCを使用して、メディアサーバーに接続します。

! WARNING

エッジゲートウェイと異なるネットワークにあるPCから接続した場合、メディアサーバーを検出することはできません。

初期システム設定をする

システム名と管理者パスワードを設定します。

NOTE

VMSでは、1つ以上のカメラやサーバーを含む、モニタリング（監視）の仕組み全体のことを「システム」と呼んでいます。

1 Nx Witnessデスクトップクライアントを起動します。

同一ネットワークのメディアサーバーが検索され、メディアサーバーが表示されます。

2 [新しいサーバー] をクリックします。



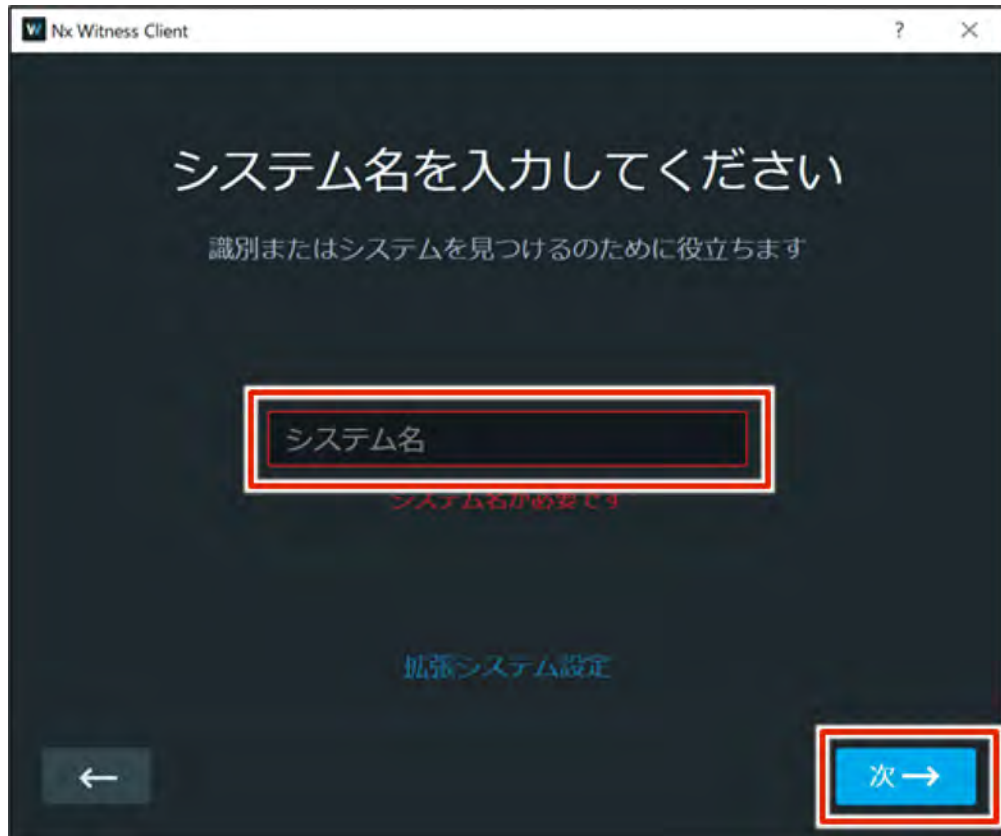
「Nx Witnessを始める」画面が表示されます。

3 [新しいシステムをセットアップします] をクリックします。



システム名の設定画面が表示されます。

4 「システム名」にシステム名を入力して、[次→] をクリックします。



管理者パスワードの設定画面が表示されます。

5 「パスワード」と「パスワード (確認)」に管理者パスワードを入力して、[次→] をクリックします。

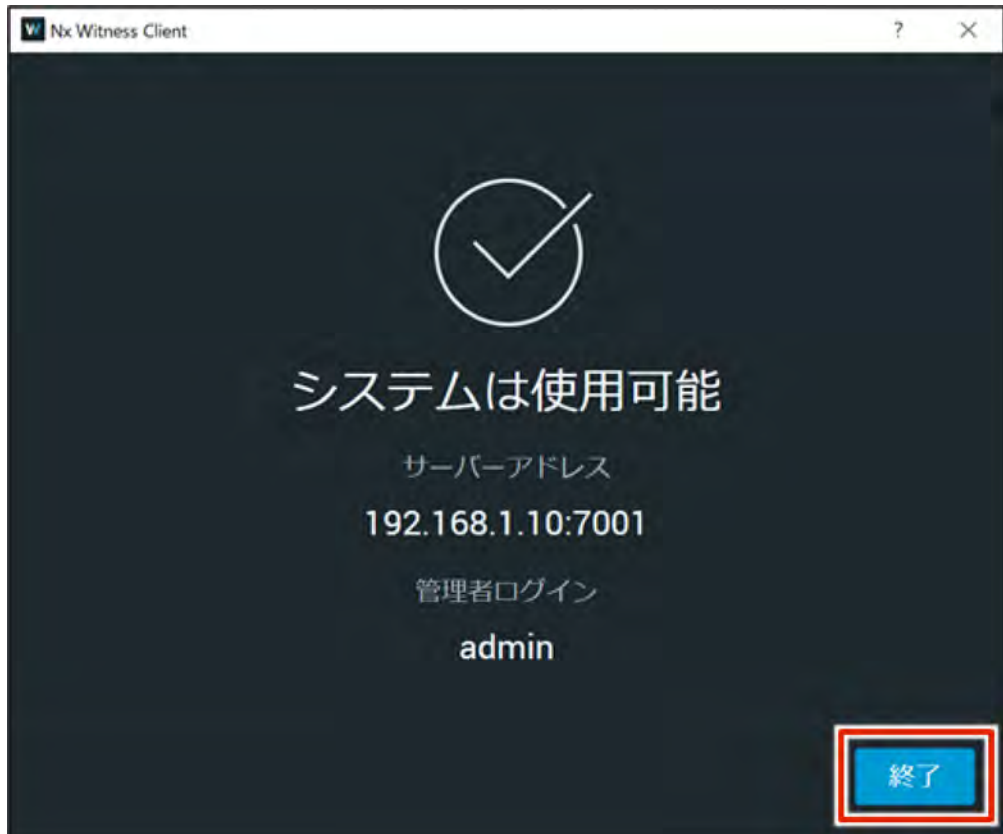
! WARNING

パスワードに、「?」、「/」、「#」を含まないでください。上記文字のいずれかが含まれている場合は、統合ビデオ管理システムの全機能が利用できなくなります。



システムが使用可能になります。

6 **【終了】** をクリックします。

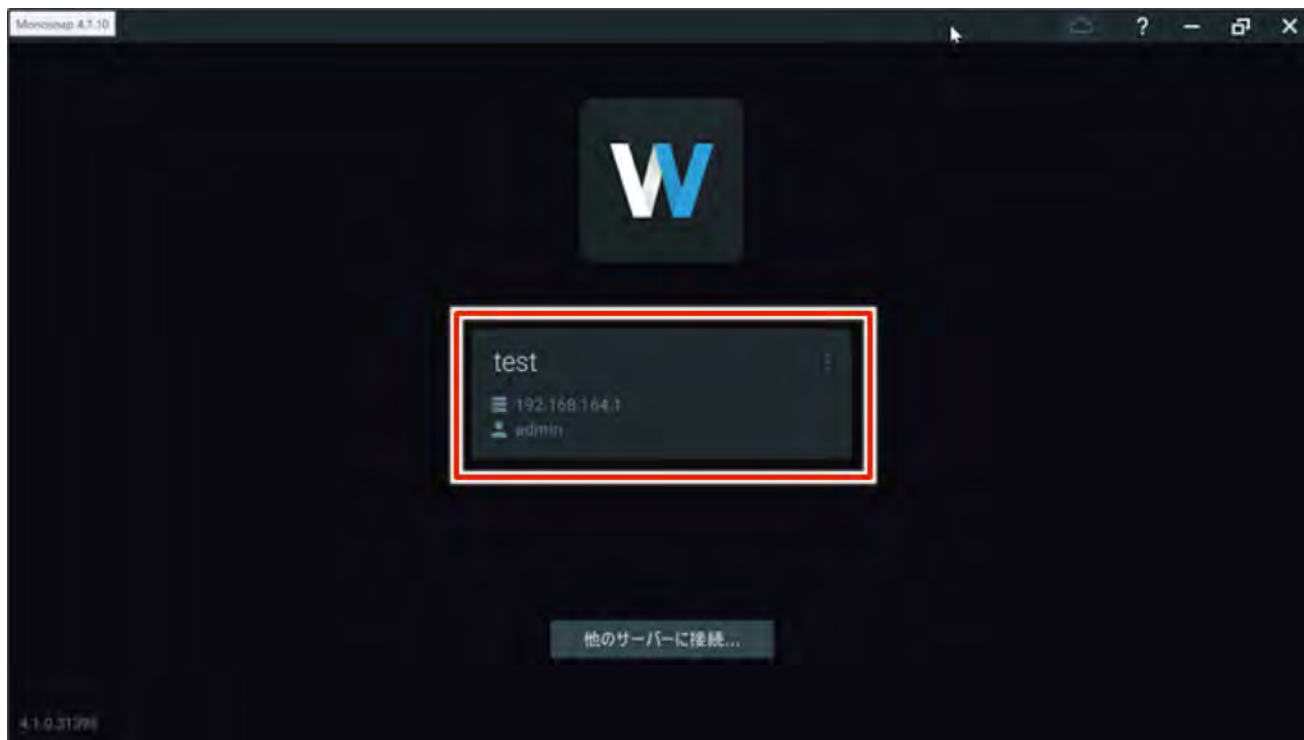


初期システム設定が終了します。

設定したシステムに接続する

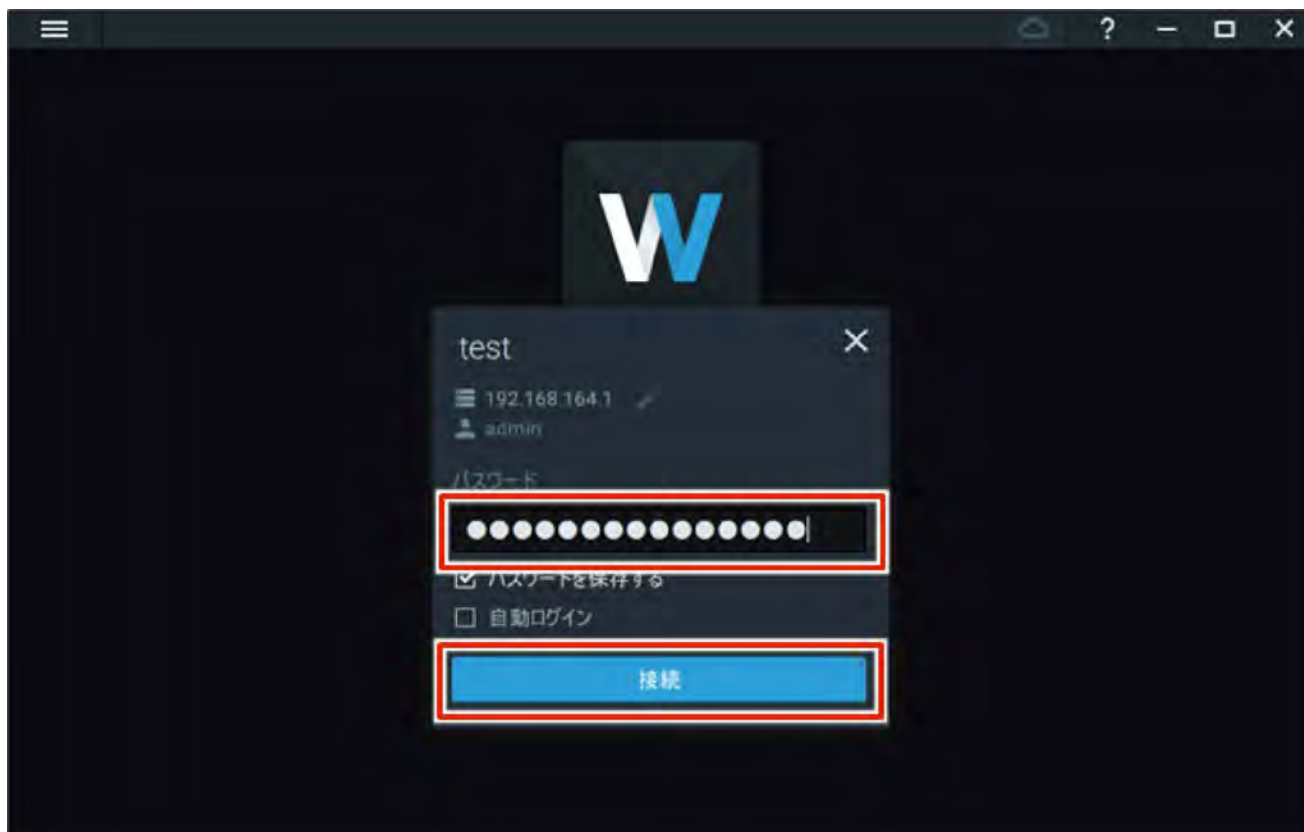
初期システム設定で設定した情報で、システムに接続します。

- 1 **Nx Witnessデスクトップクライアントを起動します。**
同一ネットワークのメディアサーバーが検索され、表示されます。
- 2 **システムをクリックします。**

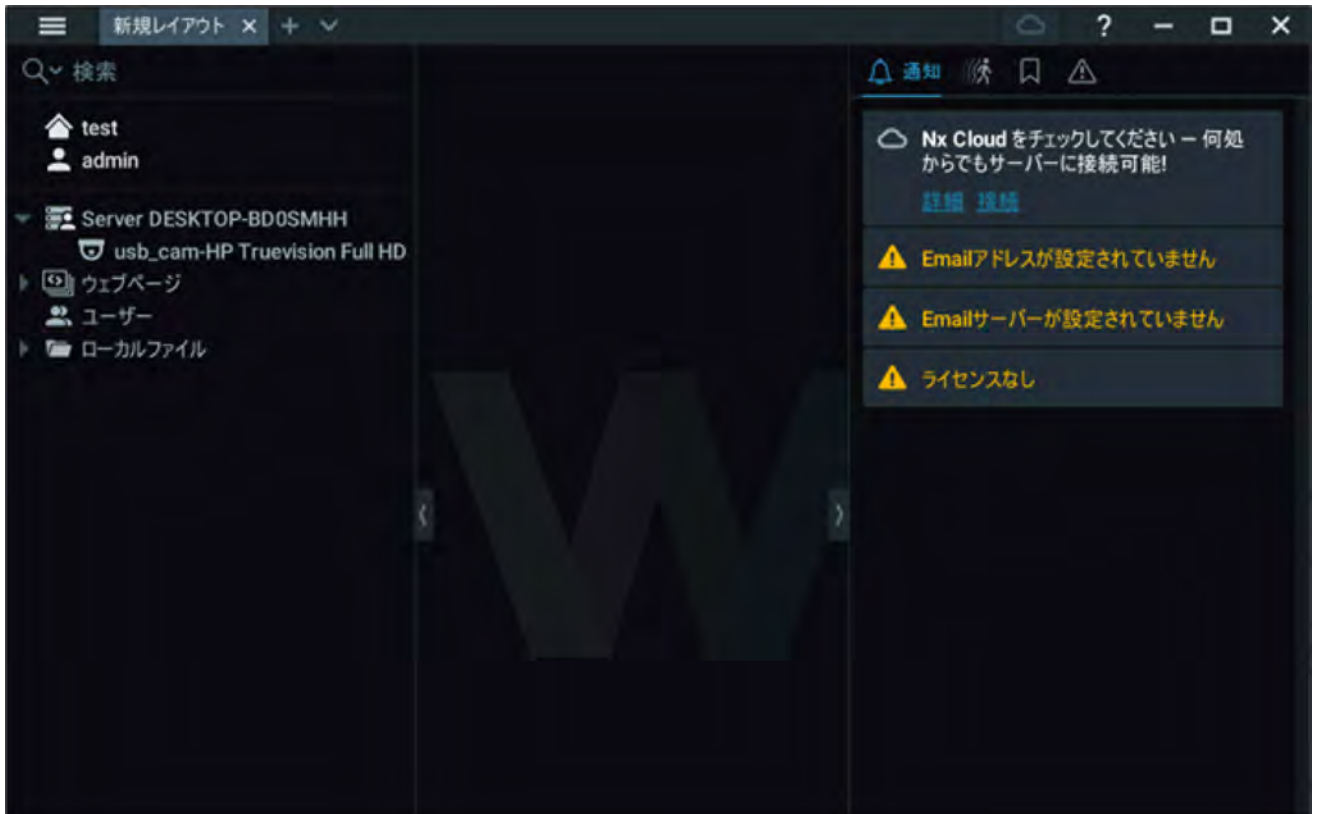


認証情報の入力画面が表示されます。

- 3 「パスワード」に管理者パスワードを入力して、「接続」をクリックします。



メディアサーバーにログインすると、以下のような画面が表示されます。



デバイスを確認する

メディアサーバーは、ネットワーク内でアクセス可能なデバイスを自動検出します。デバイスが起動すると、[カメラ&リソース] に表示されます。

NOTE

- Axisカメラの「People Counter」機能が有効化されている場合、Nx Witnessでは自動検出と手動検出のいずれも動作しません。
- デバイスが別のネットワークに所属している場合、あるいはインターネットでのみアクセスできる場合、デバイスが自動検出されることはありません。
- ご利用のネットワーク環境やセキュリティ設定によっては、カメラが認識しないことがあります。その場合、VPNの環境やPCのセキュリティ設定などをご確認ください。

1 Nx Witnessデスクトップクライアントを起動し、メディアサーバーに接続します。

NOTE

システムに接続する方法については、以下を参照してください。

→ 『[設定したシステムに接続する](#)』

2 サーバーをクリックします。

カメラが表示されます。



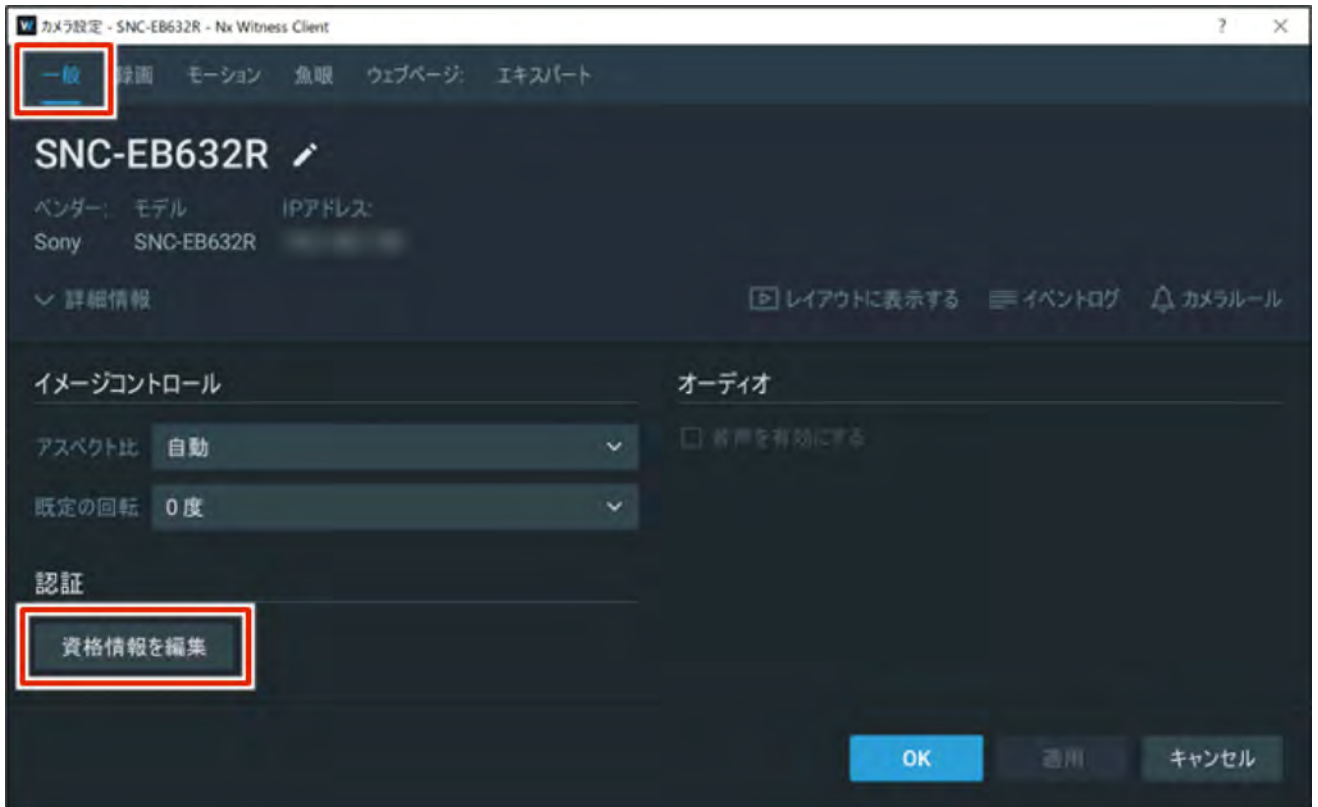
3 カメラの認証を行います。

- 1 カメラ名を右クリックし、表示されたメニューから [カメラ設定] を選択します。



「カメラ設定」画面が表示されます。

- 2 [一般] タブで [資格情報を編集] をクリックします。



「認証資格情報」画面が表示されます。

- ③ カメラをセットアップした際に設定したログイン情報を入力して、[OK] をクリックします。

NOTE

ログイン情報はお客さまによって異なります。ユーザー名とパスワードは、カメラ初期設定時にご自身で設定したものを入力してください。



4 **カメラ名をダブルクリックします。**

カメラが動作している場合、以下のように映像が表示されます。



デバイス認証が必要なカメラの場合

接続しているカメラの横に  というアイコンが表示されていることがあります。これは、デバイスが認証されていないことを表しています。

この場合、デバイス認証する必要があります。詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

→ [『Nx Witness VMS Guide』](#)

WARNING

Nx Witness デスクトップクライアントを起動すると、アップデートを促すポップアップが表示することがありますが、アップデートは行わないでください。

詳しくは、次のFAQを参照してください。

→ [『Nx Witness デスクトップクライアントを起動したら、アップデート画面が表示されます』](#)

VMSの設定を保存する

Nx Witnessのシステム設定が完了したら、設定内容を保存します。

WARNING

- 設定を変更した場合は必ずNx Witnessの設定を保存してください。
- 設定内容を保存しない場合、カメラ設定などが消えて元の設定に戻ってしまうことがあります。
- また、設定内容を保存すると冗長領域で起動した場合も設定が正しく反映されます。

→ 冗長領域については、[『エッジゲートウェイシリーズ GUI ユーザーズマニュアル』](#)を参照してください。

Nx Witnessのパスワードと設定を保存する

Nx Witnessの設定データをバックアップするために、Nx Witnessの管理者パスワードをエッジゲートウェイに保存します。

→ Nx Witnessの管理者パスワードの設定については、[『初期システム設定をする』](#)を参照してください。

本作業は、Graphical User Interface (GUI) で実施します。

→ GUIでの接続手順については、[『初回サインイン』](#)を参照してください。

GUI画面サイドメニューの【詳細設定・制御】 - 【Nx Witness設定】をクリックします。

「Nx Witness設定」画面が表示されます。



「Nx Witness設定」画面において、管理者パスワードを入力の上「Nx Witnessの設定を保存」をクリックします。



3 **確認ダイアログが表示されるので、【保存する】をクリックします。**

Nx Witnessの管理者パスワードや、Nx Witness内で設定した項目（録画設定やストレージ設定など）が保存されます。



amnimo VMSの設定をする

2024年7月12日

NOTE

amnimo VMSは正式版ではないため、サポートの対象外です。ご使用にあたり、予期せぬ不具合が発生する可能性があることをご了承ください。

amnimo VMSを有効化する

はじめに、Command Line Interface（以下、CLI）を利用してデバイスの amnimo VMS を有効化します。

NOTE

- CLI の詳しい利用方法や設定内容については、以下のマニュアルを参照してください。
→ 『[CLIユーザーズマニュアル](#)』
- シリアルコンソールで接続してCLI操作をすることも可能です。エッジゲートウェイの利用方法や設定内容の詳細については、以下のマニュアルを参照してください。
→ 『[CLIユーザーズマニュアル](#)』の『第1章 CLIの基本』

CLIの動作モードについて

エッジゲートウェイ専用のCLIには、一般ユーザーモード、管理者モード、設定モードという3種類の動作モードがあります。それぞれのモードでできる操作とコマンドラインのプロンプトを以下に示します。

ユーザーモード

一般ユーザーモードでは、運用管理に必要な操作をします。

```
amnimo$
```

管理者モード

管理者モードでは、一般ユーザーモードの操作に加え、エッジゲートウェイの再起動などを制御することができます。


```
amnimo#
```

設定モード

設定モードでは、設定内容を確認したり、設定したりすることができます。

```
amnimo(cfg)#
```

エッジゲートウェイにログインする

CLIでエッジゲートウェイにログインします。

NOTE

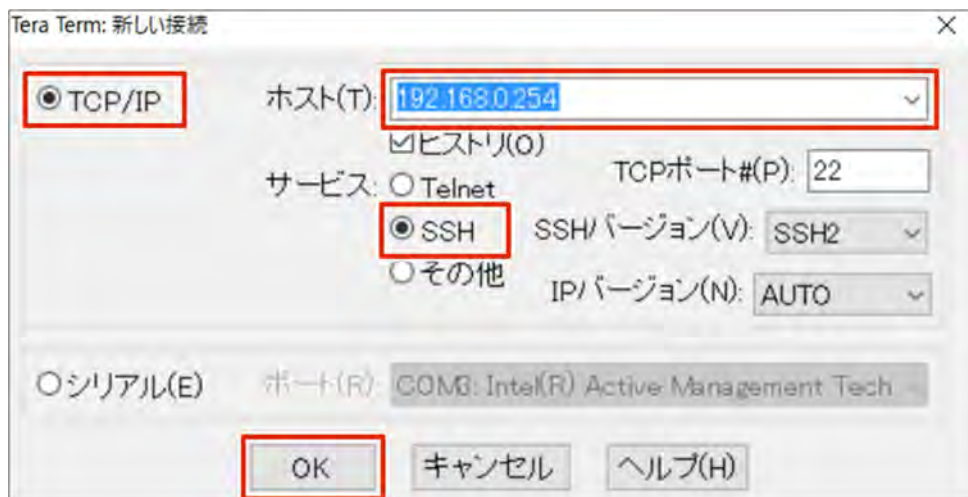
事前にGUIでSSHを有効にしてください。SSHの設定方法については、『[SSHの設定をする](#)』を参照してください。

- 1 PCに、Tera TermやPuttyなどのWindowsのターミナルエミュレーターソフトをインストールします。

NOTE

本書では、Tera Termを使用して説明しています。

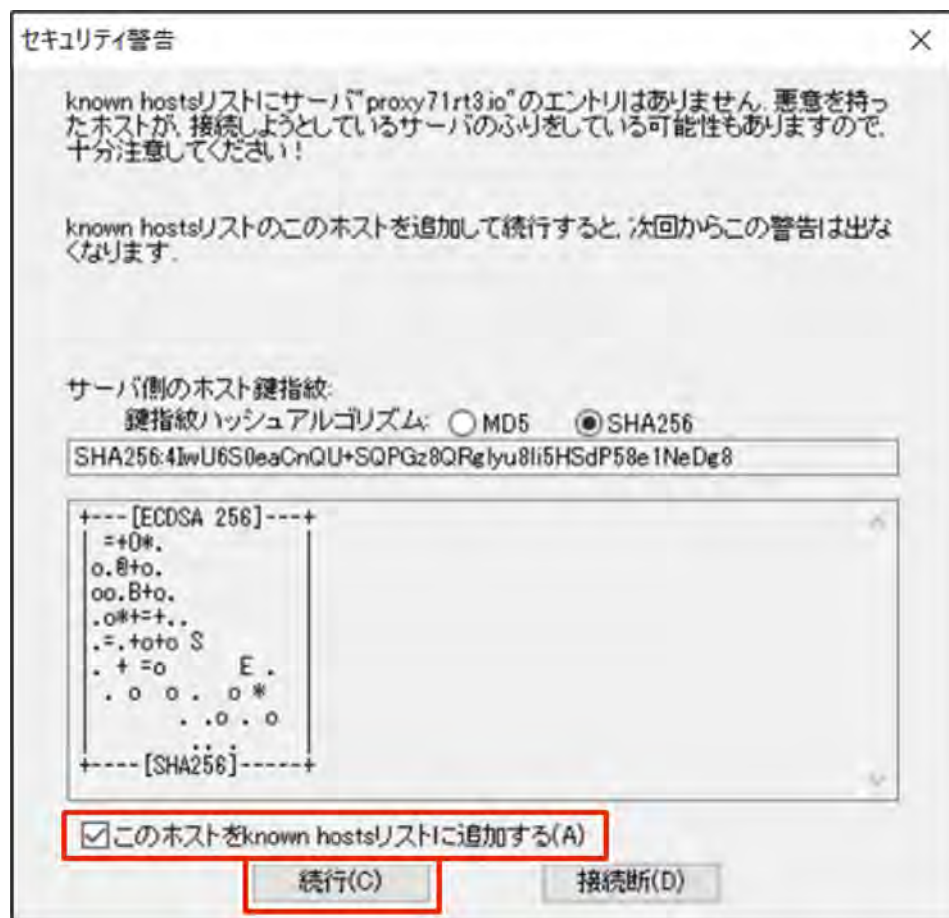
- 2 Tera Termを起動し、「Tera Term新しい接続」画面で以下の設定をして、[OK] をクリックします。



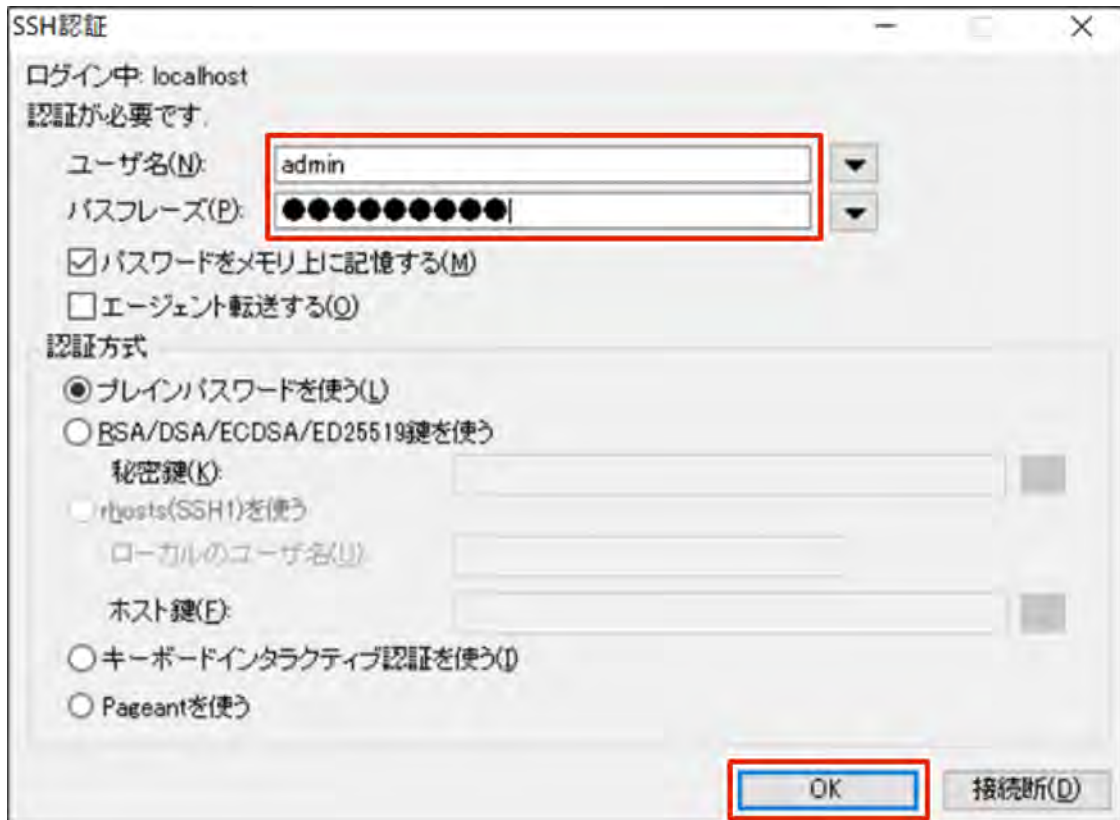
- ① 「TCP/IP」を選択します。
- ② 「ホスト」にIPアドレス「192.168.0.254」を入力します。
- ③ 「サービス」で「SSH」を選択します。

新しいホストに接続した場合、「セキュリティ警告」画面が表示されます。

3 **【このホストをknown hostsリストに追加する】にチェックを付けて、【続行】をクリックします。**



4 Step 2の初回ログインで入力したログイン情報を入力して、【OK】をクリックします。



CLIでエッジゲートウェイにログインします。

amnimo VMS の初期設定をする

amnimo VMS を有効化およびカメラ設定をします。

NOTE

amnimo VMS の初期設定について以下の FAQ を参照してください。

→ [『amnimo VMS の初期設定を行う』](#)

統合ビデオ管理システムとは

2024年7月12日

統合ビデオ管理システムの主要な機能は、以下のとおりです。

- アラームの一覧表示
- ビデオクリップの取得、再生
- ビデオウォールによる複数カメラのサムネイル一覧表示
- スナップショットの取得

NOTE

- 統合ビデオ管理システムの機能を利用するにはお申し込みが必要となります。また、同時にデバイス管理システムのお申し込みが必要です。
- ご利用をご希望の場合は、営業担当者にご連絡ください。統合ビデオ管理システムの設定を進めるためには、本ドキュメントにおける以下の設定が完了している必要があります。
 - [Step 1 起動／接続する](#)
 - [Step 2 サインインする](#)
 - [Step 3 エッジゲートウェイの設定をする](#)
 - [ネットワークカメラと接続する](#)
 - [VMSの設定をする](#)
- 統合ビデオ管理システムの詳しい利用方法や設定内容については、以下のマニュアルを参照してください。

→ 『[統合ビデオ管理システムマニュアル](#)』

WARNING

統合ビデオ管理システムでは、H.264 のみサポートしているため、カメラのストリーミングプロファイル（Primary/Secondary 共）のコーデックを **H.264 に指定してください**。

設定が正しく行われない場合、統合ビデオ管理システムの機能（ライブ映像の再生）に失敗する場合があります。ライブ映像の再生失敗については、次のFAQを参照してください。

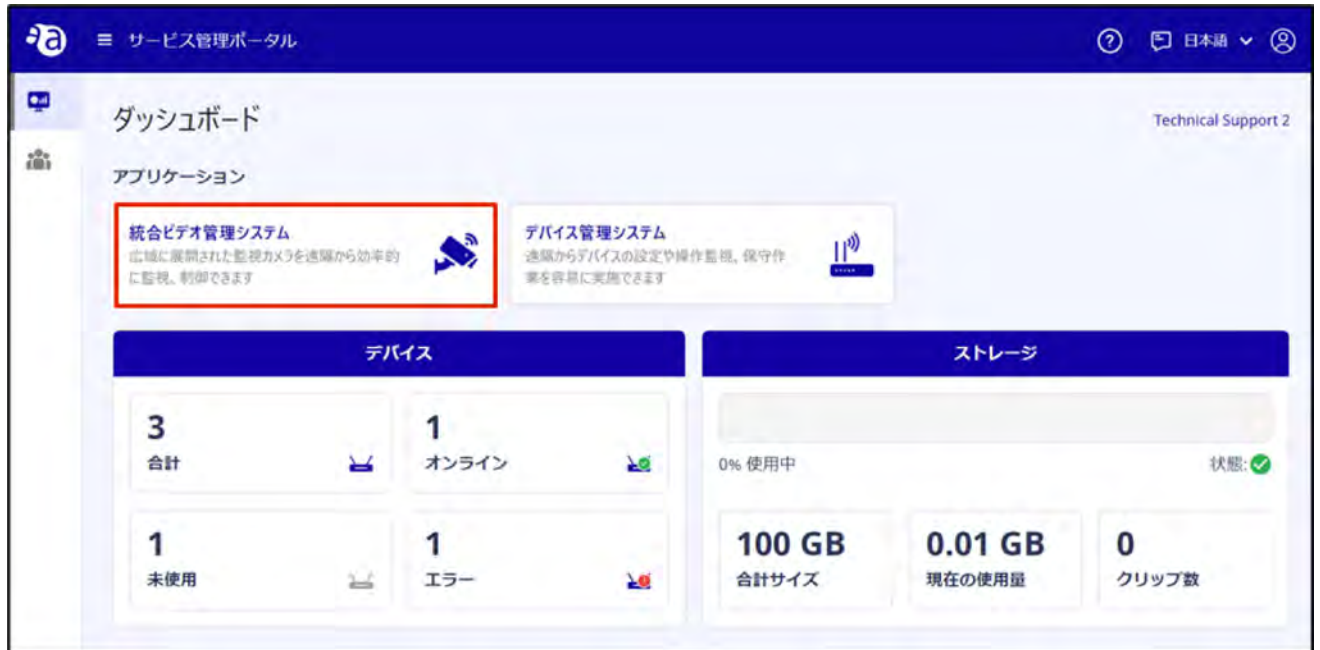
→ 『[統合ビデオ管理システムにて、ライブ映像の再生に失敗します](#)』

エッジゲートウェイを有効化する

2024年7月12日

1 Webブラウザで、[サービス管理ポータル](#)にログインします。

2 ダッシュボードで、**「統合ビデオ管理システム」**をクリックします。



3 ▼をクリックし、**「デバイス」**を選択します。



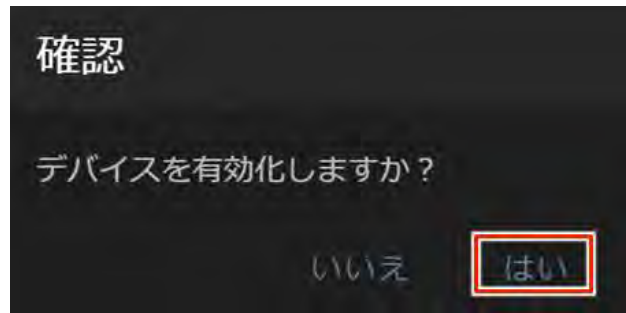
4 有効化したいデバイスの をクリックし、**「ゲートウェイ設定」**をクリックします。



5 設定画面が開くので [有効化] をクリックします。



6 確認画面が開くので [はい] をクリックします。(この作業には数分かかることがあります。)



7 有効化が完了すると、[非有効化] ボタンがアクティブになります。



これで、有効化は完了です。

VMS の認証情報を設定する

2024年7月12日

NOTE

amnimo VMS を利用する場合、VMS認証情報の登録は不要です。『カメラを検出する』に進んでください。

- 1 デバイスの をクリックし、[ゲートウェイ設定] をクリックします。



- 2 [その他] から [VMS認証情報] をクリックします。



3 認証画面が表示されるので、ユーザー名とパスワードを入力して「設定」をクリックします。

NOTE

VMS 認証には Nx Witness の管理者アカウント情報が必要です。

→ 『[Nx Witnessのパスワードと設定を保存する](#)』



これで、VMS 認証情報が設定されました。

カメラを検出する

2024年7月12日

NOTE

- 既にデバイスにカメラが接続されている場合、デバイスを有効化すればカメラは自動で検出されます。
- カメラが検出されている場合は、『カメラの認証と録画の設定をする』に進んでください。
- 統合ビデオ管理システムの詳しい利用方法や設定内容については、以下のマニュアルを参照してください。

→ 『[統合ビデオ管理システムマニュアル](#)』

- カメラが検出されない場合に考えられる要因としては、以下が考えられます。
 - カメラのIPアドレスがエッジゲートウェイのbr0とは別のネットワークに属している
 - カメラのデフォルトゲートウェイのアドレスにエッジゲートウェイのbr0のIPアドレスが設定されていない
 - カメラのONVIF機能が有効になっていない

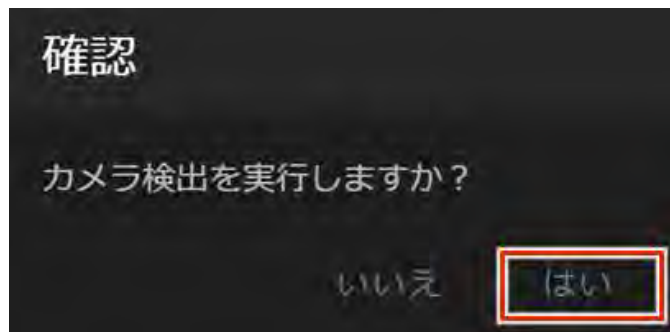
1 デバイスの **⋮** をクリックし、**[ゲートウェイ設定]** をクリックします。



2 **[その他]** から **[カメラ検出]** をクリックします。



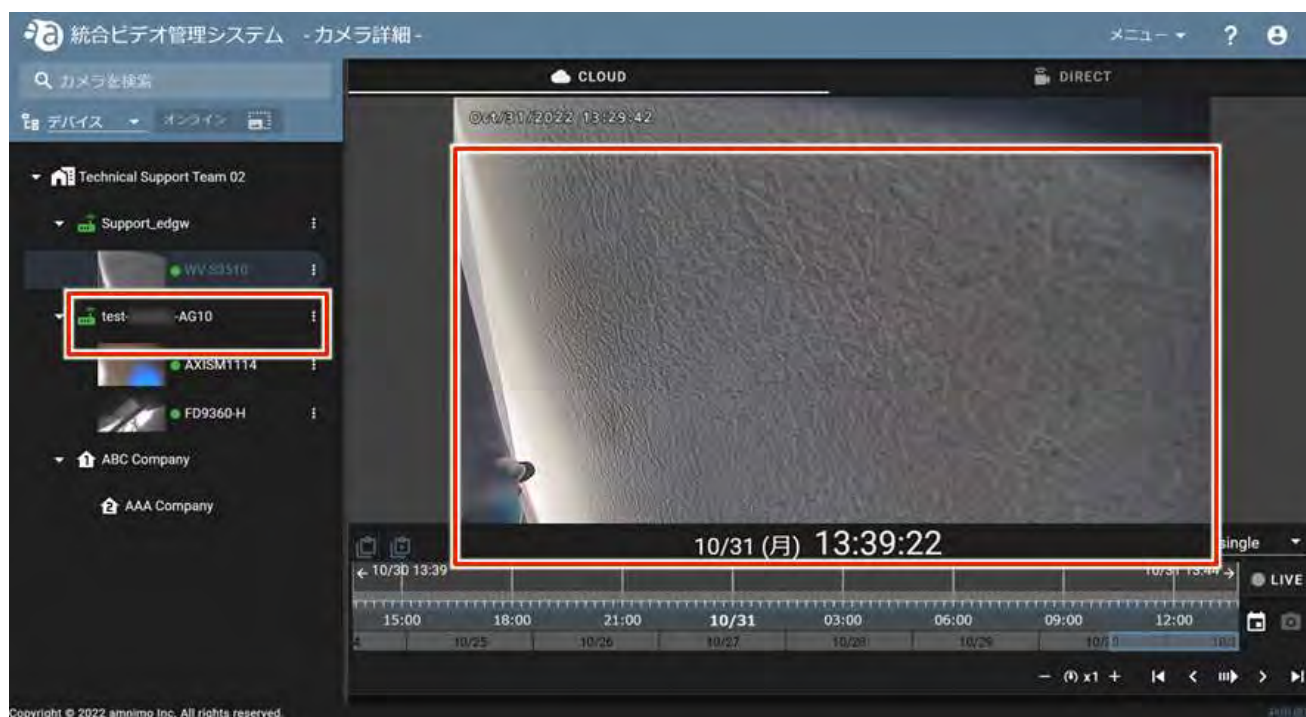
3 確認画面が表示されるので「はい」をクリックします。



4 サイドバーにカメラが表示されたことを確認します。(スナップショットを取得するまでサムネイルは表示されません。)



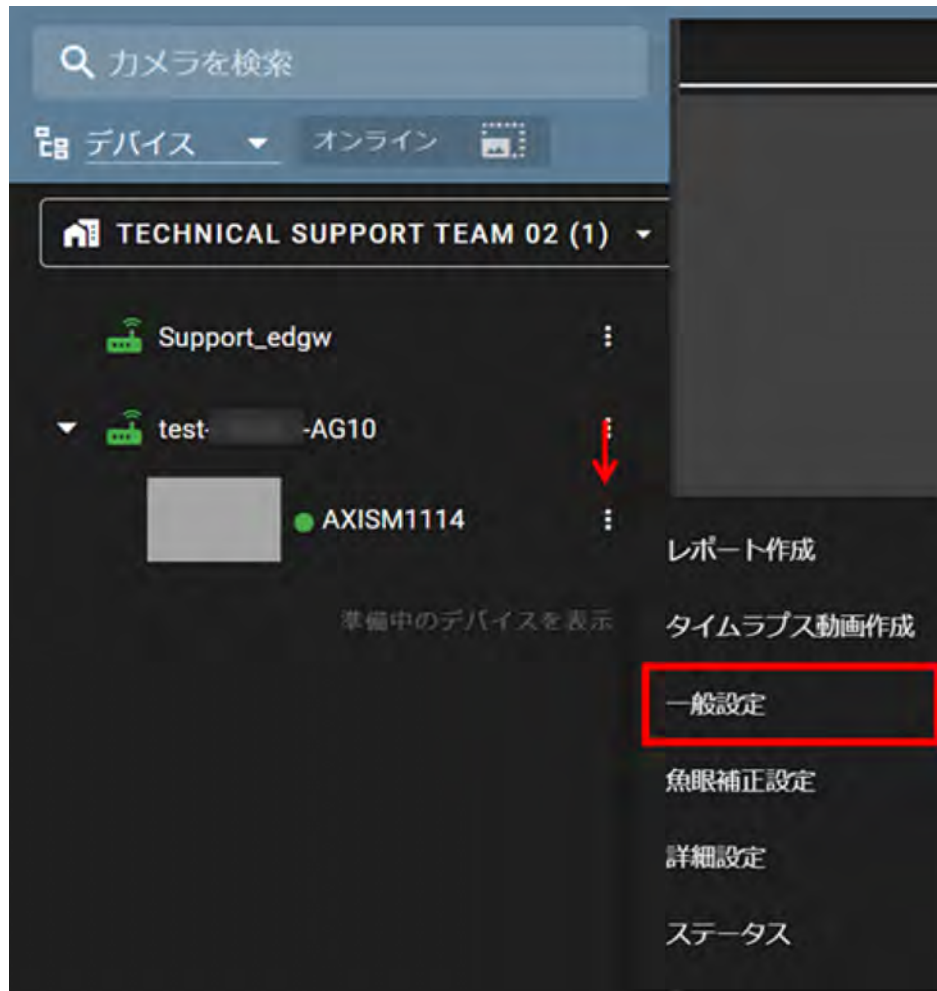
5 追加したカメラを選択し、映像が表示されることを確認します。



カメラの認証と使用開始の設定をする

2024年7月12日

1 検出したカメラの **⋮** をクリックし、**[一般設定]** をクリックします。

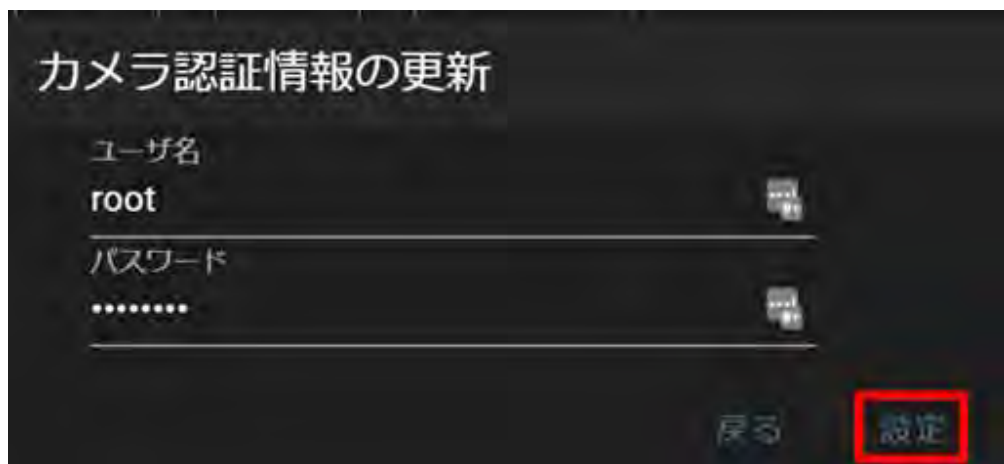


2 **[カメラ認証情報]** の **[設定]** をクリックします。



3 ユーザー名とパスワードを入力したら [設定] をクリック、画面を閉じます。

※ユーザー名とパスワードは、カメラ初期設定時にご自身で設定したものを入力してください。



4 追加したカメラを選択し、DIRECT タブをクリックして映像が表示されることを確認します。



デバイス管理システムとは

2024年7月12日

amnimo IoTクラウドシステムのデバイス管理システムを利用することで、遠隔地にあるエッジゲートウェイの監視やメンテナンスを容易に行うことができます。

デバイス管理システムの主要な機能は、以下のとおりです。

- デバイスのリモート監視
- デバイスの設定ファイルのリモート配布・取得
- ファームウェアのリモート更新
- Syslogのファイル取得

NOTE

- デバイス管理システムの機能を利用するにはお申し込みが必要となります。ご利用をご希望の場合は、営業担当者にご連絡ください。
- デバイス管理システムの設定を進めるためには、本ドキュメントにおける以下の設定が完了している必要があります。
 - [Step 1 起動/接続する](#)
 - [Step 2 エッジゲートウェイにサインインする](#)
 - [Step 3 エッジゲートウェイの設定をする](#)
- デバイス管理システムの詳しい利用方法や設定内容については、以下のマニュアルを参照してください。

→ [『デバイス管理システムマニュアル』](#)

デバイスを有効化する

2024年7月12日

デバイス管理システムから、対象のデバイスを有効化します。



NOTE

- 有効化を進めるためには、あらかじめデバイス側で時刻設定を完了しておく必要があります。

→ 『[時刻を設定する](#)』



WARNING

本作業は、必ずデバイスがインターネットに接続出来ていることを確認のうえ実施してください。

有効化は通常10分程度で完了しますが、最大1時間程度かかる可能性がございます。数十分経過しても有効化が完了しない場合、機器の再起動で短縮可能です。

1 Webブラウザで、[サービス管理ポータル](#)にログインします。

2 ダッシュボードで、[デバイス管理システム] をクリックします。



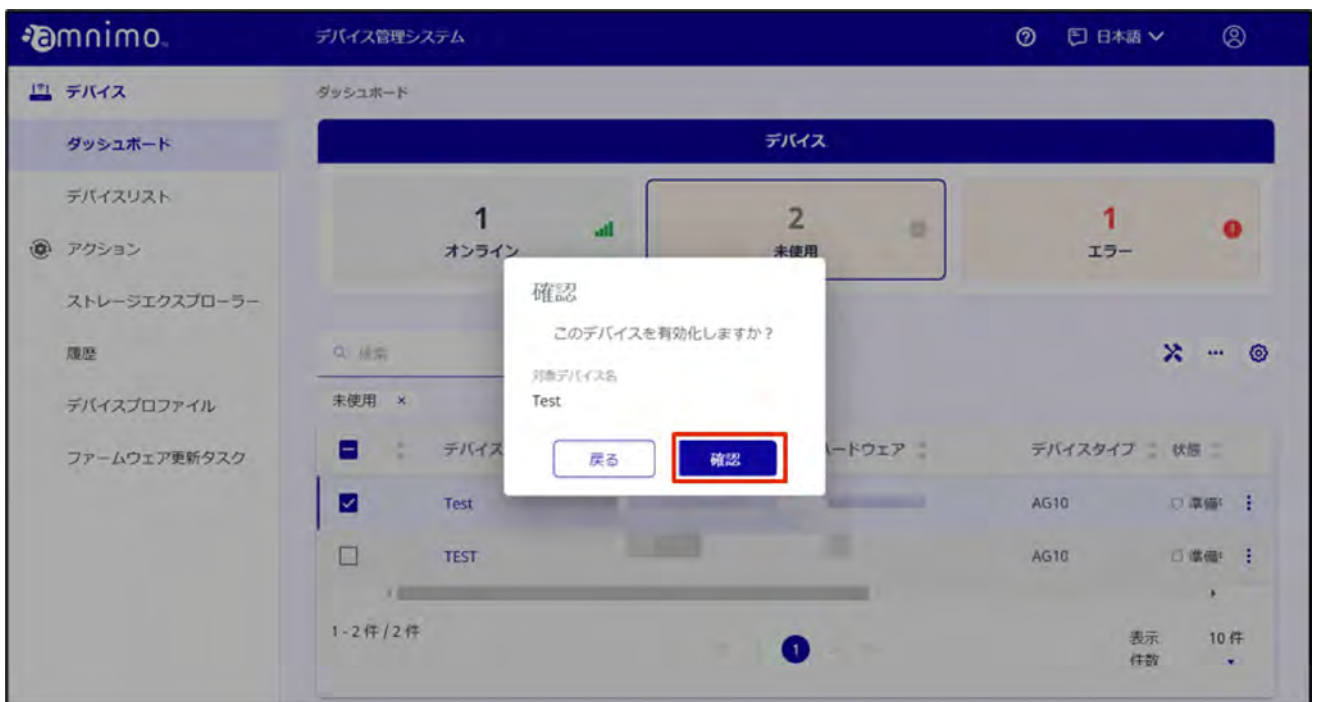
3 ダッシュボード画面にて「デバイスリスト」をクリックし、デバイスリスト画面へ移動します。



4 対象のデバイスの [:] ボタンをクリックし、表示されたメニューで [有効化] を選択します



5 **[確認]** をクリックします。



デバイスがインターネットに接続すると有効化が完了します。

6 デバイスがインターネットに正常に接続しており、電波状態が良好であることを確認します。

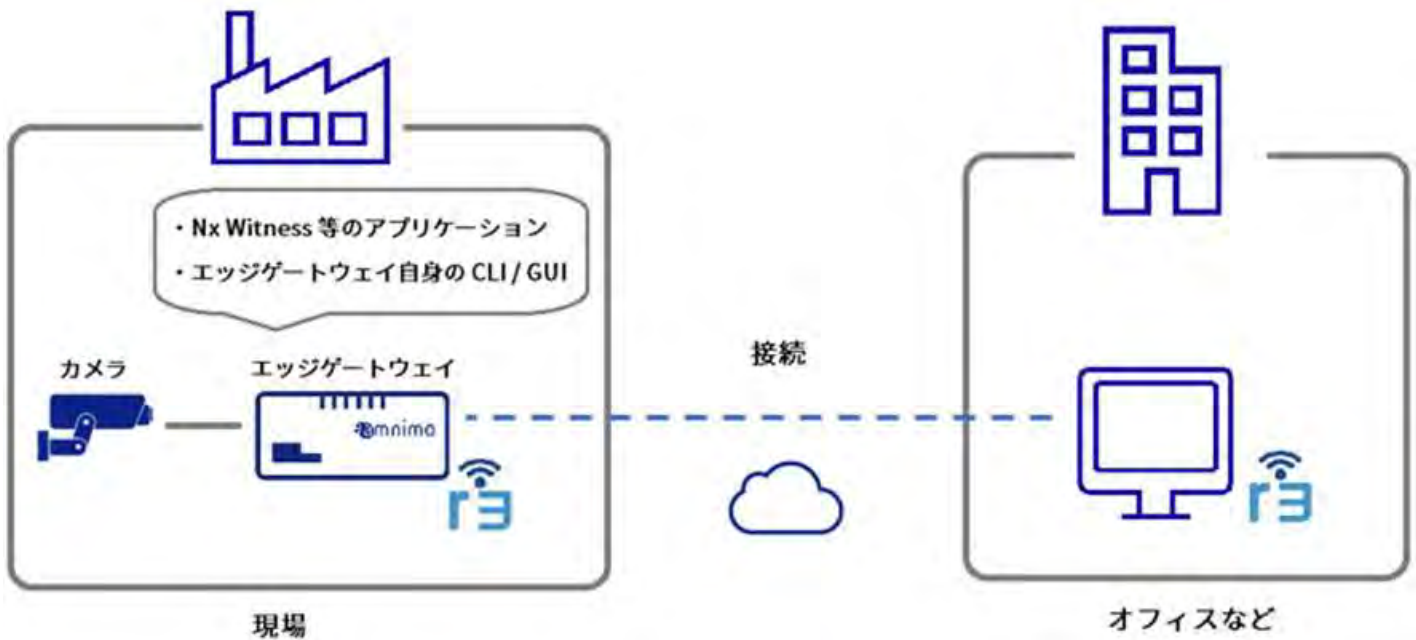
remote.it とは

2024年7月12日

remote.itを利用することで、離れた場所にあるデバイスに、ご利用のPCなどの端末から安全にアクセスすることができます。

ケース1

デバイス上で動くアプリケーションに遠隔でアクセスする



ケース2

デバイスのLANポートに接続された産業用機器に遠隔でアクセスする

remote.it のアカウントを作成する

2024年7月12日

remote.it を利用するには、remote.it のアカウントが必要となります。ご利用をご希望のお客様は、amnimo の営業担当までご連絡いただき、remote.it のご利用契約を結んでください。

remote.it の利用を申し込まれた方へ、当社からremote.it アカウント作成に関する案内を送付します。案内に記載された内容に従ってアカウントを作成してください。

! CAUTION

- **デバイス管理システムお申し込み後、remote.it を申し込まれる場合**

remote.it のアカウント作成完了後にamnimo のカスタマーサポートへ、会社名、お客様名、remote.it アカウントで利用しているメールアドレス、デバイス名、設定完了日をご連絡ください。

→ <https://support.amnimo.com/hc/ja/requests/new>

- **アムニモの製品をサンプルとして利用される場合**

当社で作成済みのremote.it アカウントを使用して、試験・評価を行なうことが可能です。ご希望の場合はサンプル利用の申し込みの際に併せてお申し出ください。

1 remote.it のアカウントを作成します。

アムニモからremote.it のアカウント作成に関する案内が届いたら、案内に記載の内容に沿ってremote.it のアカウントを作成します。

remote.itの設定をする

2024年7月12日

はじめに、Graphic User Interface（以下、GUI）を利用してデバイスの remote.it を有効化します。

remote.itの有効化をする

remote.itを利用するためにremote.itの有効化をします。

NOTE

remote.itを利用する前に、以下の設定がされていることを確認してください。

- デバイスがインターネットに接続している。デバイスのDNS設定がされている。
- Step 2で簡易設定した場合は、DNSの設定は有効化されています。
- 時刻が正しく設定されている。

1 GUIでサインインをし、サイドメニューの「詳細設定・制御」 - 「remote.it設定」をクリックします。「remote.it設定」画面が表示されます。



2 トグルをスライドし、remote.itを有効に設定します。



3 [設定] をクリックします。



デバイスを登録する

デバイス管理システムの利用の有無で設定方法が変わります。お使いの環境に合わせて、remote.it の設定を行ってください。

デバイス管理システムをご利用の場合

デバイス管理システムを利用している場合、以下のマニュアルの手順に沿ってデバイスの登録をします。

→ 『[デバイス管理システムマニュアル- remote.it](#)』

! WARNING

デバイス管理システムをご利用の場合、Command Line Interface (CLI) からデバイスやサービスの登録を行わないでください。デバイス管理システムからremote.itの設定が行えなくなります。

デバイス管理システムを利用していない場合

デバイス管理システムを利用していない場合、Command Line Interface (以下、CLI) を利用してデバイスを登録します。

NOTE

- CLI の詳しい利用方法や設定内容については、以下のFAQを参照してください。
→ 『[remote.itの初期設定をする \(AG/AR\) デバイスを登録する](#)』
- シリアルコンソールで接続してCLI操作をすることも可能です。IoTルーターの利用方法や設定内容の詳細については、以下のマニュアルを参照してください。
→ 『[CLIユーザーズマニュアル](#)』の『第1章 CLIの基本』

サービスを登録する

NOTE

remote.it デスクトップアプリを使ってサービスを登録します。

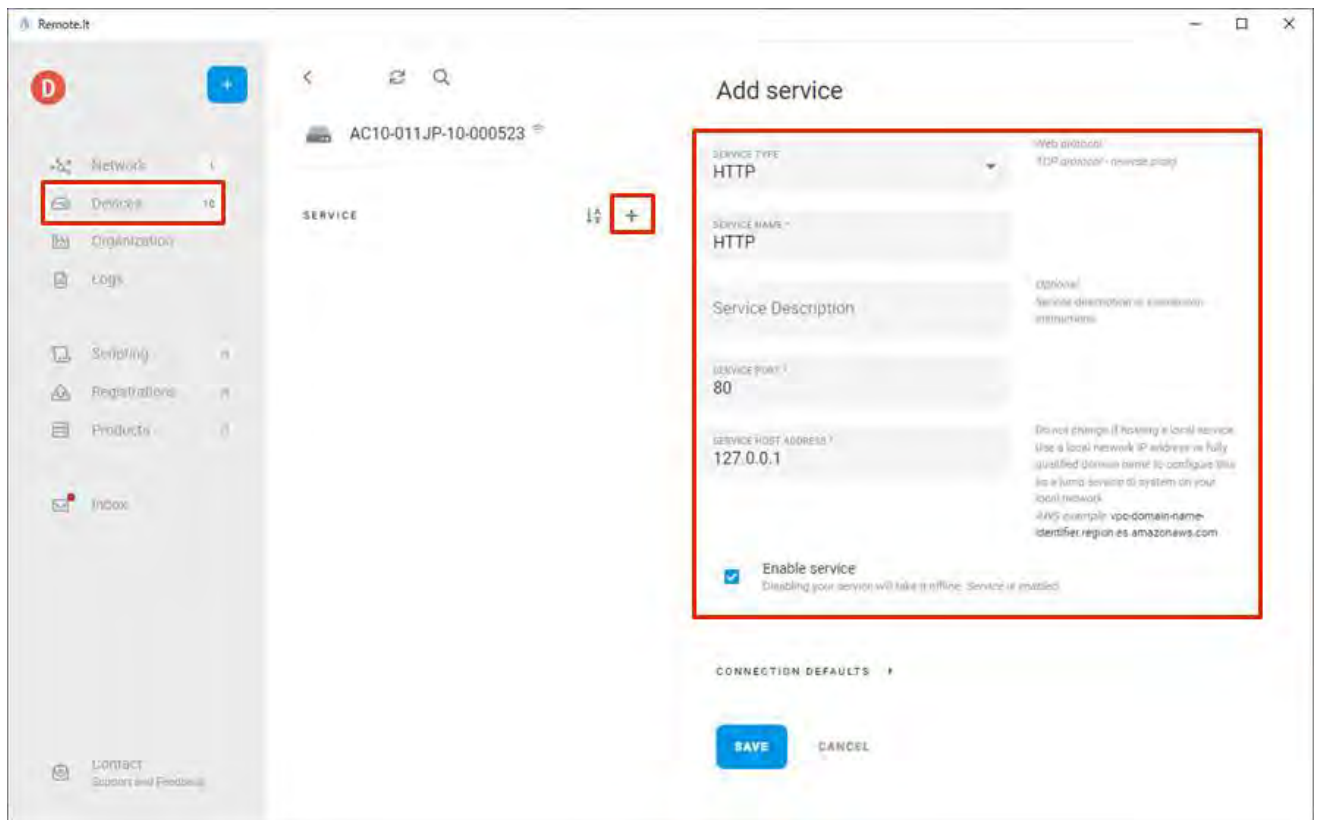
- アプリケーションは、以下のサイトからダウンロードが行えます。
→ <https://ja.remote.it/download>
- インストールの詳しい手順については、以下のページを参照してください。

→ <https://support.remote.it/hc/ja/articles/4420541365773>

1 remote.it デスクトップアプリを起動します。

2 サイドバーの [Devices] から、該当するデバイスをクリックします。

3 SERVICE とある項目で [+] ボタンをクリックし、追加したいサービスを選択したら、サービス名とポート番号などの必要な情報を入力し、[SAVE] をクリックして保存します。



remote.itを使ってサービスに接続する

2024年7月12日

本章では、remote.itのWindows用のクライアントアプリケーションをPCにインストールし、前項で設定したデバイスのサービスに接続する手順について説明します。

! WARNING

- 本書では、remote.itの「[イニシエーター接続機能](#)」を利用してエッジゲートウェイに接続します。
- 「デバイス登録機能」を使ってデバイスを登録すると、課金対象となりますのでご注意ください。

1 remote.it デスクトップアプリケーションをインストールします。

NOTE

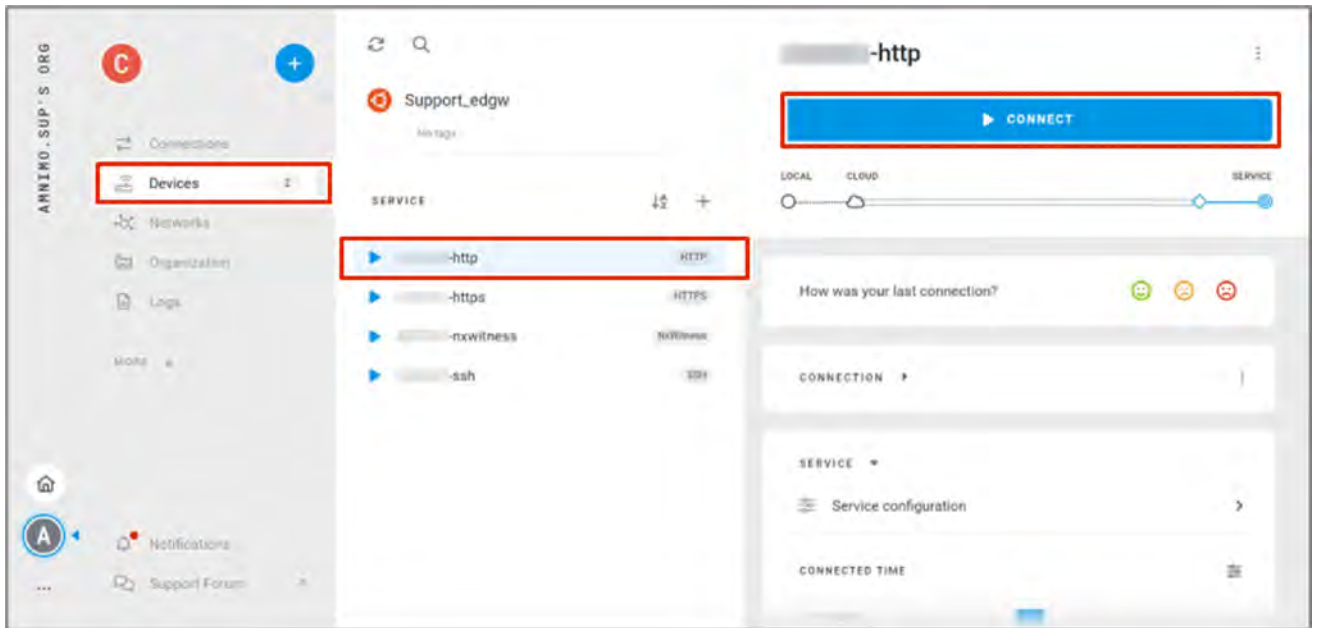
remote.it デスクトップアプリを使ってサービスに接続します。

- アプリケーションは、以下のサイトからダウンロードが行えます。
→ <https://ja.remote.it/download>
- インストールの詳しい手順については、以下のページを参照してください。
→ <https://support.remote.it/hc/ja/articles/4420541365773>

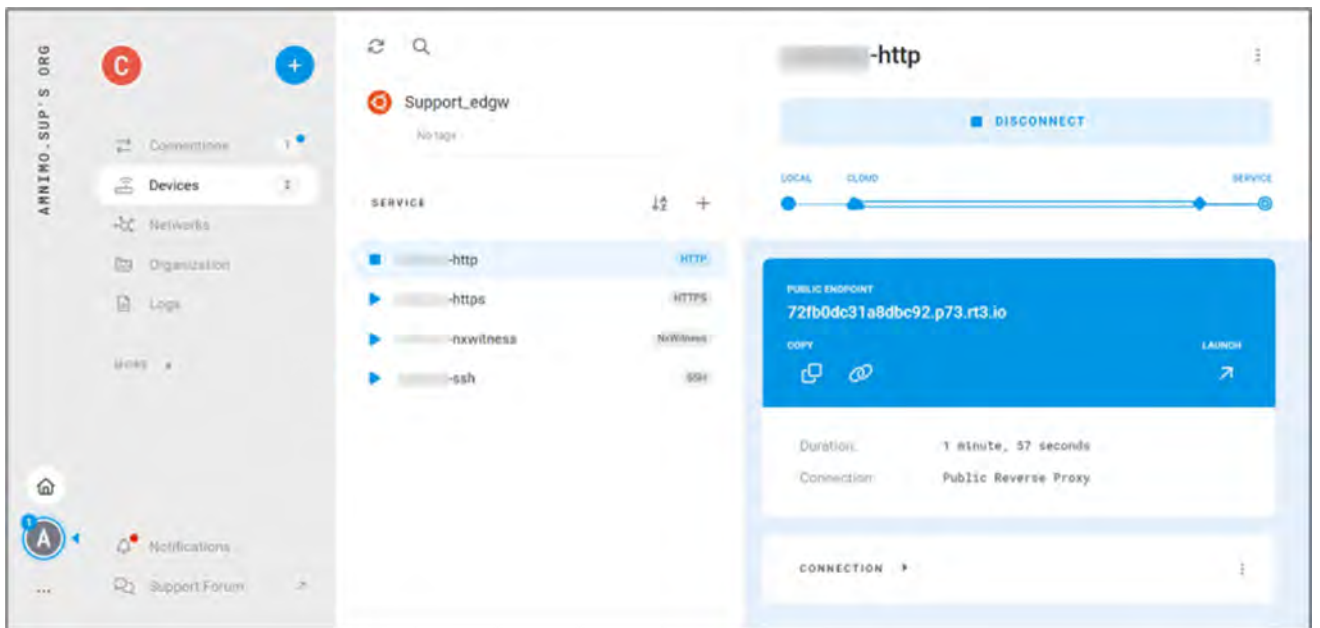
2 remote.it デスクトップアプリケーションを起動します。

3 サイドバーから [Devices] をクリックして対象のデバイスを開き、接続したいサービス（本手順ではHTTP）を選択し、[CONNECT] をクリックします。

（アプリのバージョンによっては、[START] と表示されることがあります。）



接続が確立されると接続情報が表示されるため、HTTP接続ができることを確認します。



NOTE

remote.it デスクトップアプリからデバイスに接続する方法については以下のページにも詳しい記載があります。

→ <https://support.remote.it/hc/ja/articles/4421390375565>

ライセンス

2024年7月12日

- 本エッジゲートウェイでは、GPL（GNU General Public License）等のオープンソースライセンスに基づくソフトウェアを使用しています。
詳細については、当社Webサイトに記載しています。

[エッジゲートウェイシリーズ オープンソースソフトウェア使用許諾条件書](#)

- **保証の範囲と対応責任**
本エッジゲートウェイにおいて、GPL等の条項に従いオープンソースソフトウェアそのものの動作に関しては、保証を行いません。

